

# 金沢大学

## FD 活動報告書

---



令和4年度

---

## <目次>

<b>1</b>	<b>令和4年度 全学FD活動概要</b>	<b>1</b>
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	13
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	18
1-5	教学マネジメントセンターの活動	26
<b>2</b>	<b>各部局等のFD活動</b>	<b>38</b>
<b>3</b>	<b>各部局等のBSD活動</b>	<b>102</b>
<b>4</b>	<b>資料編</b>	<b>122</b>
4-1	令和4年度授業評価アンケート	123
4-2	令和4年度卒業・修了者アンケート	125
4-3	令和4年度卒業・修了後アンケート	127
4-4	金沢大学FD委員会規程	130
4-5	金沢大学におけるFD活動指針	132
4-6	金沢大学履修規程	134
4-7	金沢大学シラバス様式	138
4-8	令和4年度金沢大学FD委員会名簿	139

# 1 令和4年度 全学FD活動概要

1-1 本学 FD 活動の概要

本学では平成 20 年度、「金沢大学 FD 委員会規程」（後掲：4 資料編）に基づき、教育企画会議に全学の FD 委員会を設置した。

**FD**（ファカルティ・ディベロップメント）とは、

授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取り組みをいう。（同指針第 2）

FD 委員会は、平成 20 年度に「金沢大学における FD 活動指針」（後掲：4 資料編）をまとめた。同指針は FD 活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD 活動をいわゆる PDCA サイクルの中に位置づけている（図 1）。その一環として FD 委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学における FD 活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この規定に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では、各部局等が令和 3 年度の活動に対して行った自己評価のみならず、令和 4 年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD 活動を相互に促進しあうことで、本学全体の FD 活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

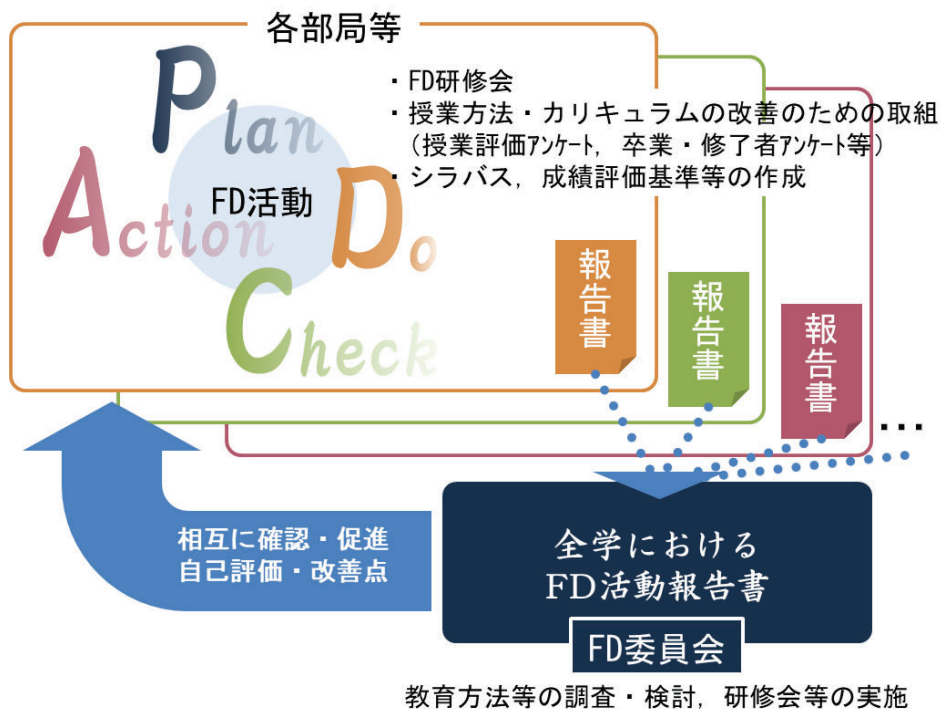


図 1 金沢大学における FD 活動

## 1-1 本学 FD 活動の概要

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をも FD 活動の中に含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学修支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度、見直しを行い、アカンサスポータルに掲載するとともに、関係教職員にエッセンシャル版パンフレットを配布している（図 2）。その内容は学生相談、留学生支援、キャリア支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員の FD 活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員の SD（スタッフ・ディベロップメント）及び BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、教学マネジメントセンターが FD 及び BSD 活動に対して必要な支援を行うことを定めている（第 8）。教学マネジメントセンターが令和 4 年度に行った FD・BSD 活動及び他部局等の FD・BSD 活動に対して行った支援の内容については 1-5 教学マネジメントセンターの活動において述べる。

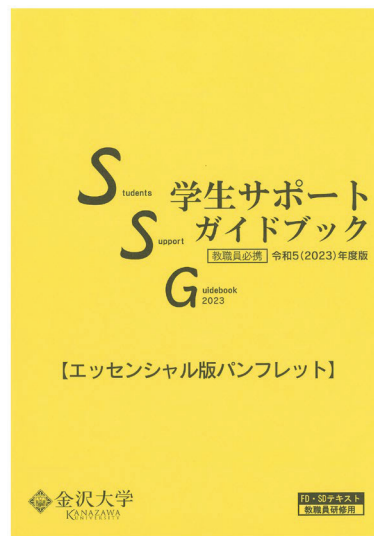


図 2 教職員必携学生サポートガイドブック

### 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」（以下、FD活動指針）においては、研修及び研究に加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げて」いくとしている。この指針を受けて、全学および各部局は、これら学則、「FD活動指針」等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、専攻ごとに、①学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目および教育プログラムの達成状況を、成績分布・授業評価アンケート・学修ポートフォリオ・卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム（マップ及びツリー）を再検証するというものである。

令和4年度は、FD活動報告書の効率のかつ効果的な構成の観点から、各部局への照会事項を厳選することとした。併せて、各部局等のFD活動の掲載について、照会事項単位での掲載を改め、各部局単位での「FD活動計画」➡「諸活動チェック」➡「自己評価」という改善向上サイクルを重視する観点から部局単位での掲載とした。

各部局のFD活動を事実に基づき確認するため、「令和3年度FD活動報告書」に記載した当該年度の自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画に沿いながら、「照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況」、「照会事項2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況」、「照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況」、「照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)」、「照会事項5 令和4年度FD活動の自己点検及び総評」の5項目について照会した。以下に、それらについての回答を点検した結果について述べる。なお、項目によって回答母数が異なる場合もある。



## 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

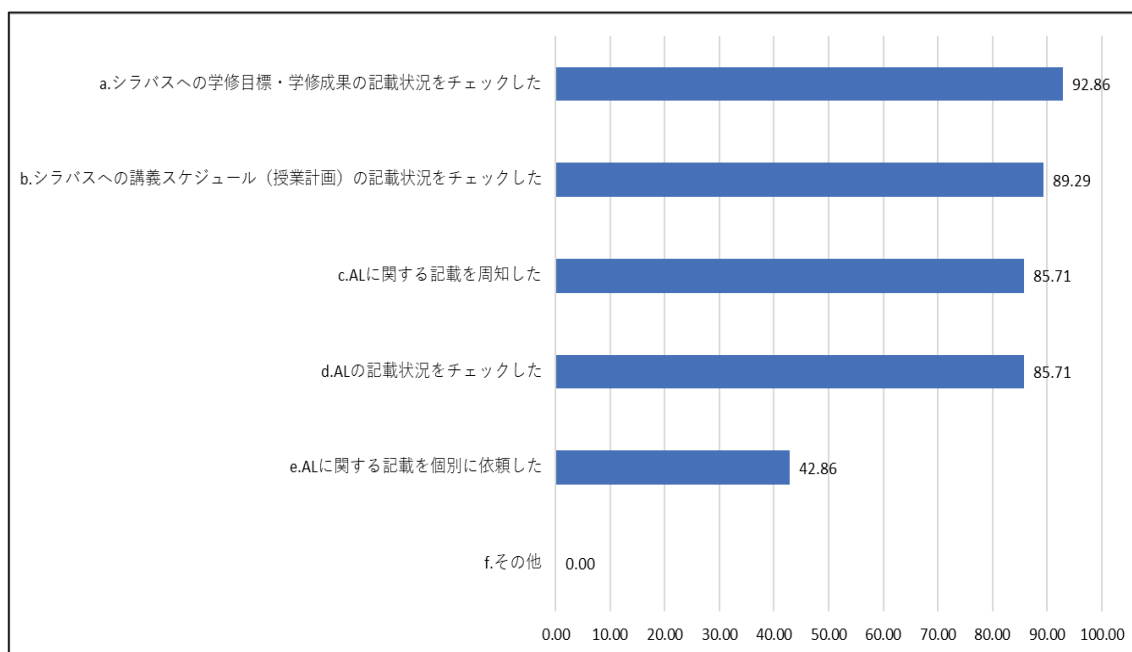
【検証事項1】令和4年度の実施状況

### 1) シラバスの点検①（教学マネジメント関連）

シラバスの点検については、大きく教学マネジメント関連と SGU 関連の 2 つに分けた設問を設定した。教学マネジメント関連としては、「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「AL に関する記載を周知した」、「AL の記載状況をチェックした」、「AL に関する記載を個別に依頼した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表 1-2-1 のとおりであるが、シラバス作成における基本項目である「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」については、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」については機械工学類・機械科学専攻、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科がチェックしておらず、今後は全部局がチェックを行うよう改善が必要である。恒常的なシラバス点検体制が不十分であることがうかがえる。

図表 1-2-1 各項目のチェック率（回答母数：28）



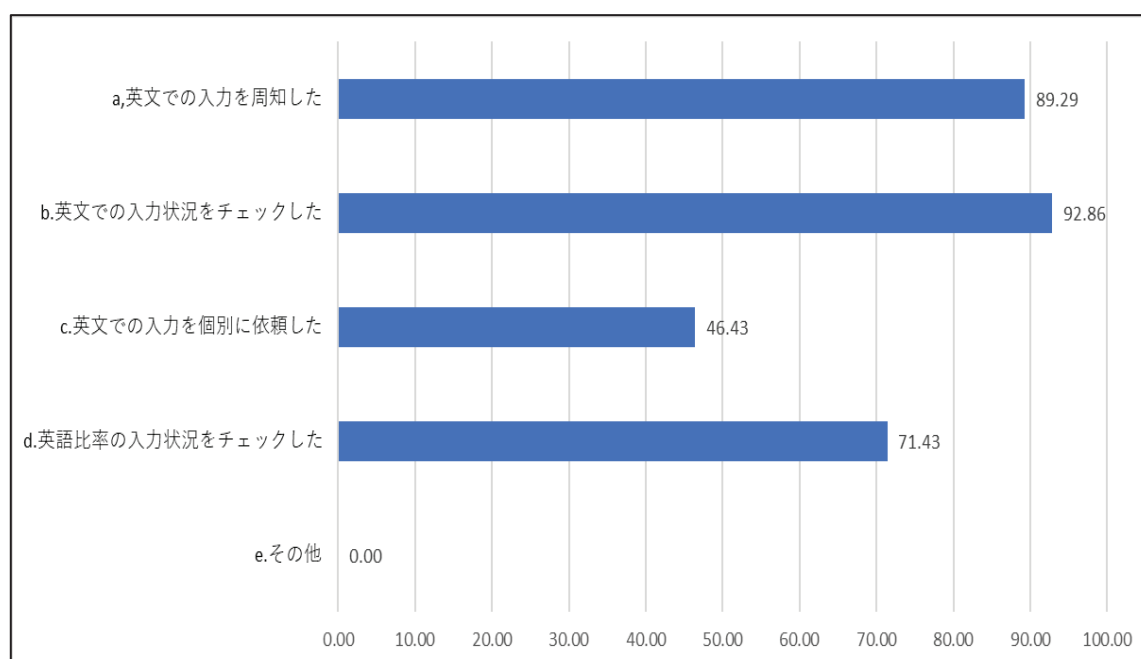
### 2) シラバスの点検②（SGU 関連）

次に、SGU 関連で求められている授業英語化に関する設問として、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」、「その他」についてのチェック欄および具体的内容について回答する形としている。

## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

各項目のチェック率は図表 1-2-2 のとおりであるが、「英文での入力を周知した」については、医薬保健学総合研究科, 先進予防医学研究科, 「英文での入力状況をチェックした」については機械工学類・機械科学専攻, 教職実践研究科がチェックしておらず, 今後は全部局がチェックを行うよう改善が必要である。授業英語化関連でのシラバスチェックが不十分であることがうかがえる。

図表 1-2-2 各項目のチェック率（回答母数：28）



「英文での入力を個別に依頼した」, 「英語化率の入力状況をチェックした」が半数前後の低い値となっており, 授業英語化への取り組みが不十分であることがわかる。

通常のシラバス点検および授業英語化シラバス点検ともに, チェックの入っていない教育担当部局のいくつかで前年度に点検作業を行ったため今年度は行っていないという趣旨の記述が見られるが, 義務化されているFD活動の一環としてのシラバスチェックは例え開講科目, 科目体系に変更がなくとも毎年実施すべきものであるという認識共有が求められる。また, 多くの学類でシラバス点検について, 学類会議, 教務・学生委員会などを中心に組織的に確認している一方で, 個人レベルでの点検実施や, 誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことは今後の課題であると考えられる。



**照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況**

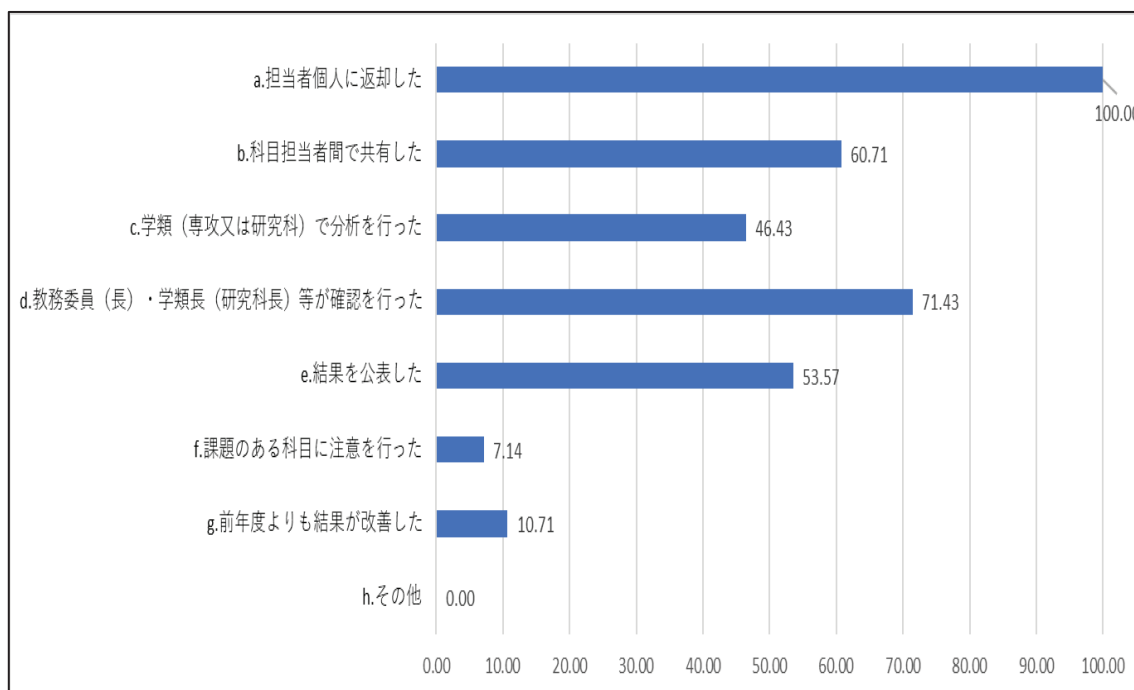
【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

授業評価アンケートの結果をどのように授業改善に活用したかでは、「担当者個人に返却した」、「科目担当者間で共有した」、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「結果を公表した」、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表1-2-3のとおりであるが、「担当者個人に返却した」が100%となっているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」にチェックが入っている。今後、さらに、授業評価アンケート結果の利活用を促していく必要がある。

図表1-2-3 各項目のチェック率（回答母数：28）



「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「結果を公表した」で半数前後、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」においては、少数の教育担当部局でしか実施されておらず、さらなる改善を行う必要がある。

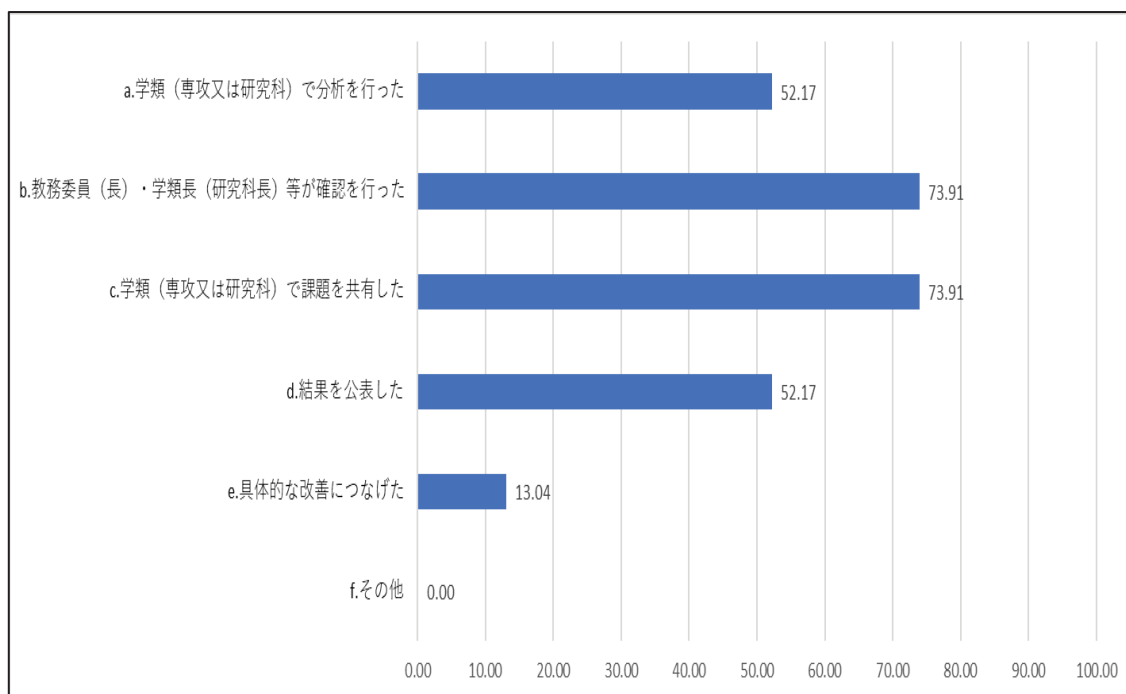
## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

### 2) 卒業・修了者に対するアンケート

卒業・修了者に対するアンケートに関しては、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」、「結果を公表した」、「具体的な改善につなげた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-4 のとおりであるが、人文学類、法学類ですべての項目にチェックが入っているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」にチェックが入っている。今後、さらに、卒業・修了者アンケート結果の利活用を促していく必要がある。

図表 1-2-4 各項目のチェック率（回答母数：23）



卒業・修了者に対するアンケート結果の確認、共有は一定程度行われているが、具体的な分析や改善につなげることについて課題を残している。

### 【検証事項3】教員相互の授業参観（遠隔授業の参観を含む）

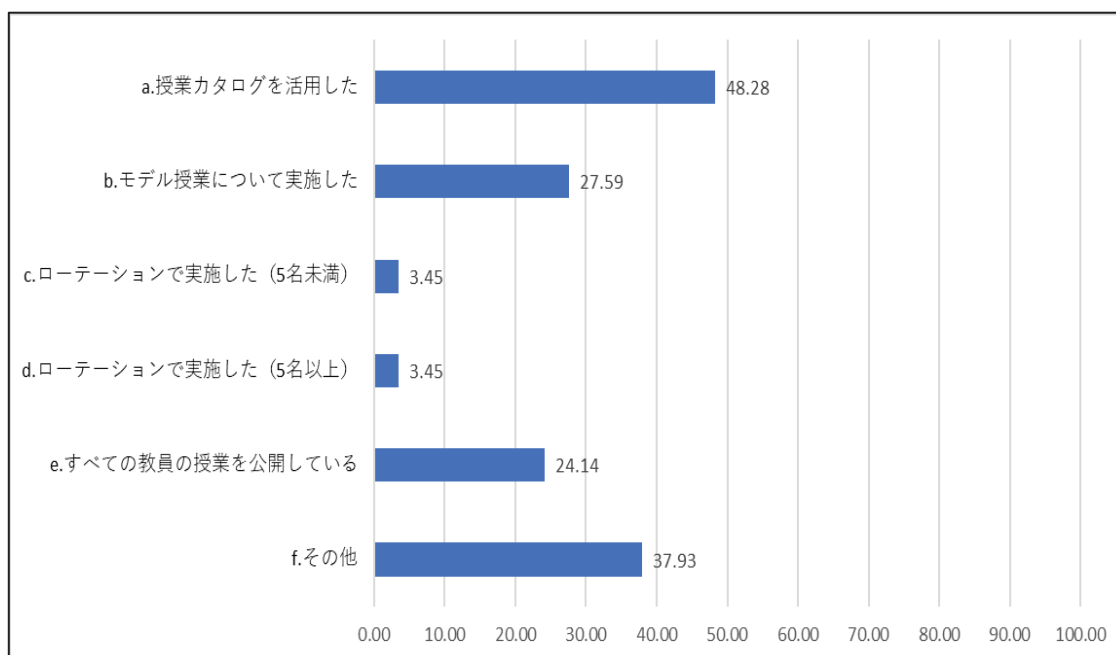
遠隔授業の参観を含む教員相互の授業参観に関しては、「授業カタログを活用した」、「モデル授業について実施した」、「ローテーションで実施した（5名未満）」、「ローテーションで実施した（5名以上）」、「すべての教員の授業を公開している」、「その他」について回答を求めた。

「授業カタログを活用した」「モデル授業について実施した」「すべての教員の授業を公開している」について、一定程度の取組が見られるが、授業参観という形態でのFDには改

## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

善が必要である。一方で、ほかの設問への回答とは大きく異なり、4割近くの教育担当部局が「その他」にチェックをつけ、各部局特有の工夫を施した多様な取組についての回答がなされている。

図表 1-2-5 各項目のチェック率（回答母数：29）



### 照会事項 4 成績評価基準等の作成・検証状況

#### 【検証事項 1】令和4年度の実施状況

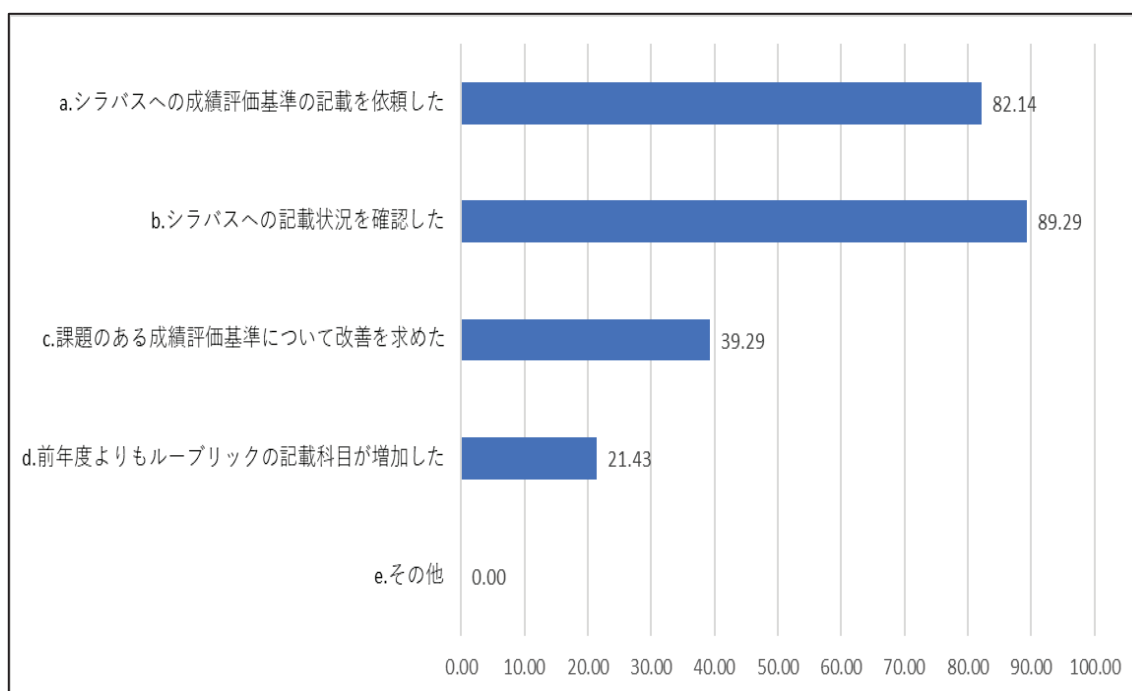
##### 1) 成績評価基準等の作成・検証

成績評価基準等の作成・検証では、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-6 のとおりであるが、人文学類、法学類、国際学類、薬学類、保健学類、国際基幹教育院外国語教育部門では、全ての項目にチェックがつけられており、成績評価基準に対する積極的な取り組みがうかがえる。一方で、1項目にしかチェックのつけられていない教育担当部局もいくつか見られることは課題である。

## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

図表 1-2-6 各項目のチェック率（回答母数：28）



「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」の数値が低い。ルーブリックについては科目特性の問題、既に多くの科目で記載されている可能性があるためある程度は仕方ないといえるが、課題のある成績評価基準については恒常的なシラバス点検体制の中で可及的速やかに改善されることが望ましく、FDとして課題である。

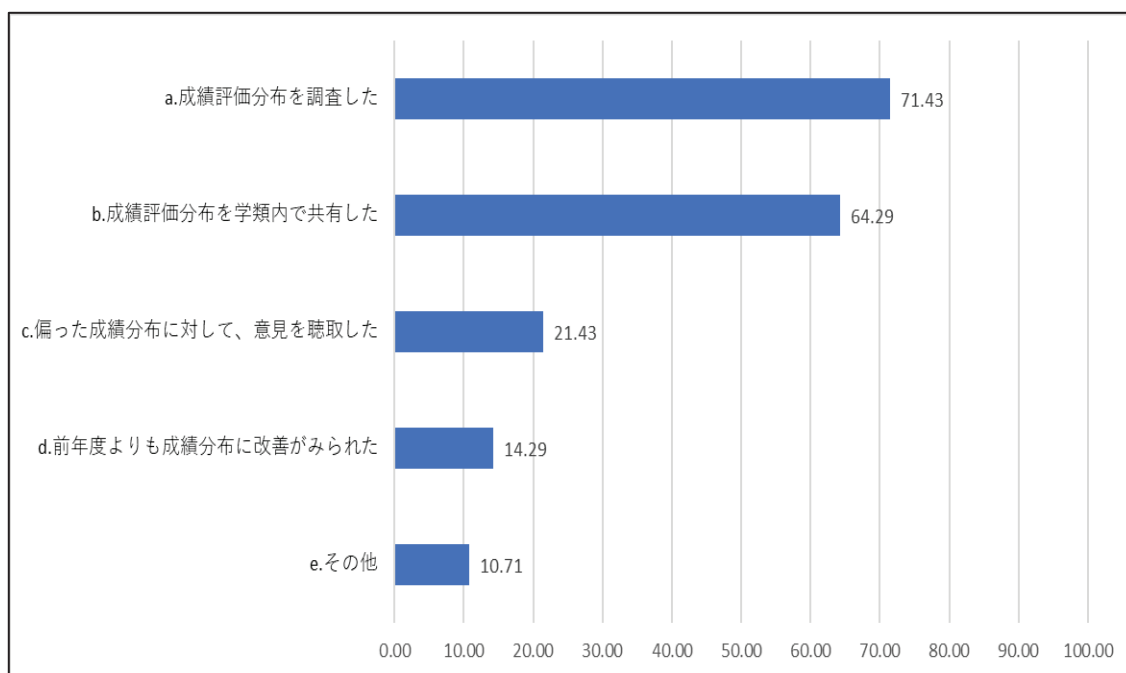
### 2) 成績評価方法の検証

成績評価方法の検証に関しては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-7 のとおりであるが、法学類、生命理工学類・自然システム学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）では、全ての項目にチェックが入っており、成績分布への関心が高いことがうかがえる。一方、1つしかチェックのない教育担当部局も少数ではあるが存在していることは課題である。成績をつけるのは教員の専権事項ではあるが、あまりに偏りのある成績分布は好ましくないという成績分布に関する認識共有を進める必要性が認められる。

## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

図表 1-2-7 各項目のチェック率（回答母数：28）



「成績評価分布を調査した」「成績評価分布を学類内で共有した」が高い数値を示しており情報共有は浸透していることがわかる。しかし、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」は2割程度、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」は2割満たない程度と低い数値となっており、成績分布に関する組織的関与に課題を残している。「その他」では、回答選択肢とは異なるが成績分布への異なるアプローチの工夫が行われていると思われる。

### 照会事項5 FD研修会の実施状況

融合学域、医学類をはじめとして、部局独自のFD研修会を創意工夫しながら開催しており、好ましい傾向である。組織改組やカリキュラム改善等を行った部局においては、直面する新しい課題について、FD研修会のテーマに掲げられている。対面及びオンラインを含めた教授法、学修支援ツールの使い方、研究指導、学生の心のケア、留学生対応など、幅広いテーマが話題となっている。これらの部局主催FD研修会の中には、教育、研究に関して共有可能なテーマのFD研修会については全学に公開・広報されることが望まれる。

### 今後の課題

今回、教学マネジメントの観点から、シラバスにおける学修目標・学修成果の記載状況、講義スケジュール（授業計画）の記載状況を新たに点検することにしたこと、さらには、卒業・修了者アンケート結果等を活用しながら、授業改善だけでなく、学位プログラムレベルのカリキュラム改善に着目するようにしたことから、照会事項の改善充実を図った。それらを踏まえて、照会事項1～5の回答を総括し課題について指摘したい。

## 1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

---

シラバス改善のための取組みの実施状況に関して、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL 関連の記載および英文での入力状況については大半の教育担当部局で確認が行われていた。一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことなど、シラバスの組織的・恒常的な点検体制が構築されていない教育担当部局があることも判明しており、今後の課題であると考えられる。

次に、授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況では、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果を積極的に活用している教育担当部局があることが明らかになったが、授業評価アンケート結果で課題のある科目への対応が十分行われていないこと、および、それに関連するが、前年度よりも結果が改善しているケースが少ないこと、卒業・修了者アンケート結果の分析、それを反映した改善活動が不十分であること、授業参観が不活発であること、課題のある成績基準改善が十分進んでいないこと、偏った成績分布への対応が不十分であること、など、今後の課題も見えてきた。

教員相互の授業参観については、Web 上で確認できる授業カタログの活用は一定程度進んでいることが確認できたが、具体的な授業参観についてはまだまだ低調であることも判明した。ただし、授業参観以外の多様な形態での教員間での情報共有、情報公開は実施されていることが「その他」への回答から見て取れるため、今後の改善充実に活かしていきたい。

成績評価基準等の作成・検証状況に関しては、成績評価分布の部局内での共有は進んでいるが、偏った成績分布への対応が不十分な点が明らかになっている。このことは、成績評価に関する組織的な関与について、更なる改善充実を進める必要がある。

学修目標・学修成果を明確にしたシラバス作成、それに基づく授業実施および成績評価、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果による改善がよりよい授業を作る上での PDCA サイクルであり、今後の改善が一層必要であることが、今回の照会事項への回答から明らかになった。

今後は、各教育担当部局（特にチェックが少なかった部局）において、このサイクルの重要性をしっかりと認識し、学生により力をつけさせることができる教育を提供出来るよう努めることが望まれる。これらの課題については、前年度の取組を踏まえた改善計画と今年度の自己評価及び総評において認識されている事項であり、今後の改善につなげられる可能性がうかがえる点は好ましい傾向であると言える。毎年のように新たな課題が出てくるが、教育担当部局として学修者重視の姿勢の下、教員間での認識を共有し、課題、解決方法を組織として検討するという体制を構築・維持していくことが、自己評価 4（大いに評価出来る）につながると考えられる。




## 1-3 FD委員会の活動

		令和4年度における活動
令和4年4月4日	(月)	令和4年度第1回全学FD研修会「新任教員説明会<教育・学生編>」開催
令和4年7月15日	(金)	第1回FD委員会開催
令和4年7月29日	(金)	第2回FD委員会開催(書面附議)
令和4年8月8日	(月)	第2回全学FD研修会「ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現」開催
令和4年9月28日	(水)	第3回全学FD研修会「金沢大学EMI科目(英語による科目)の現状と今後の展望」開催
令和4年10月28日	(金)	第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」一学類等における組織的FDの取組事例ー開催
令和4年12月22日	(木)	教学マネジメントセミナー2022「教学マネジメントのあるべき姿を考えよう!~自律的学修者を育てるために~」開催 (「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)
令和4年12月23日	(金)	第3回FD委員会開催
令和5年1月18日	(水)	第4回FD委員会開催
令和5年2月27日 ~3月24日	(月) ~ (金)	英語による授業担当者のためのFD研修会開催
令和5年3月10日	(金)	令和4年度数理・データサイエンス・AI教育FD研修会開催(教育企画会議主催)
令和5年3月14日	(火)	令和4年度「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」採択校合同シンポジウム「知識集約型社会における新しい大学教育の姿~文理融合という横糸と高大院接続という縦糸で織りなす人材育成~」開催 (「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。  
「アカンサスポータル」→「業務」→「業務マニュアル等リンク集」→「会議」→「学内会議の議事要旨等」  
<https://manual.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.php/gakunaikaigi/> (学内限定)
- 各研修会(英語による授業担当者のためのFD研修会は除く。)の動画又は資料については本学ポータルサイト(アカンサスポータル)にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。

## 【研修会】

令和4年度第1回全学FD研修会「新任教員説明会<教育・学生編>	
主催	教育企画会議専門委員会 FD委員会及び教学マネジメントセンター
日時	令和4年4月4日(月) 10時00分～11時55分
会場	総合教育講義棟2階 A1 講義室
対象	前年度研修会(令和3年4月2日開催)以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学生系職員の参加も可能
参加者	各 57名
概要	<p>新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成20年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」(共通教育機構が実施、平成16～18年度)、「新任教員等研修会(兼共通教育担当に関する研修会(初任者対象))」(教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成19年度)として開催されてきた。</p> <p>本学における授業支援体制と学生支援の取組を把握することで、教育体制全般に対する理解を深めることを目的とする。</p>
プログラム	<p>(1) アカサポータル及び教務システムの活用 (森 祥寛 学術メディア創成センター 助教)</p> <p>(2) 学生指導と支援(片岡 邦重 学長補佐(教育改革・学修支援担当))</p> <p>(3) 学生の心のケア及び学生相談(足立 由美 保健管理センター 教授)</p> <p>(4) FD及びシラバス (林 透 教学マネジメントセンター)</p>
	
アンケート結果抜粋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の学生に対するサポート体制が理解できました。先生方と協力しながらサポートしていけるよう、学生のケアに関する内容について、今後も情報を得ていきたいと思いました。</li> <li>・大学→学部→専攻のポリシーに応じた授業設定の重要性を再確認した。</li> </ul>

第2回全学FD研修会「ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現」 (「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)	
主催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共催	教育企画会議専門委員会 FD委員会・教務委員会
日時	令和4年8月8日(月) 14時～16時00分
会場	Zoomによるオンライン開催
参加者	131名(他大学の参加者を含む)
概要	ピア・サポートの基礎概念を学ぶとともに、教育・学修実践においてどのように役立てることができるかについて幾つかの事例紹介を交えつつ、学生同士の学び合いの意義や価値に関する理解を深める機会を設ける。
プログラム	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演「ピア・サポートの基礎概念とその効用」</li> </ul>

### 1-3 FD 委員会の活動

	<p>(講師：松下 健 北陸学院大学 人間総合学部 社会学科 准教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例紹介           <ul style="list-style-type: none"> <li>「附属図書館における学修支援スタッフ (LiLA) の経験を通して」 (田中 裕士 金沢大学大学院自然科学研究科 電子情報科学専攻 D3)</li> <li>「アカデミック・アドバイジングによる学修支援の経験を通して」 (中野 正俊 金沢大学 高大接続コア・センター 特任助教)</li> <li>「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) で目指す学修支援モデル」 (山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教)</li> </ul> </li> <li>・意見交換・クロージング</li> </ul>
アンケート 結果 抜 粋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修会では、様々な立場の方によるそれぞれの経験に基づいたお話を拝聴することができ多角的な学びが得られました。</li> <li>・我々教員もピア・サポート的な活動をしていることに気が付くとともに、組織的に学生を主体として取り組むことの有用性を感じました。</li> </ul>

#### 第 3 回全学 FD 研修会 「金沢大学 EMI 科目 (英語による科目) の現状と今後の展望」

共 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会・教務委員会, スーパーグローバル大学企画・推進本部, 国際基幹教育院外国語教育系
日 時	令和 4 年 9 月 28 日 (水) 13 時 30 分~14 時 30 分
会 場	総合教育講義棟 2 階 A1 講義室への出席または Zoom によるオンライン参加
参 加 者	87 名
概 要	<p>金沢大学では、SGU プロジェクトの一環として、これまで授業の英語化に取り組んできた。SGU プロジェクトも残すところ 1 年となり、これまでの EMI 科目の状況を振り返ると共に、今後大学として、どのように授業の英語化に取り組んでいくのか、考える時期に来ている。</p> <p>そこで、この FD 研修では、まずこれまで外国語教育系が行ってきた学内 EMI 専門科目に関する共同研究結果の一部を報告し、EMI 科目の現状を共有する。次に、通常授業内では授業の英語化が難しく、オンラインによる授業の英語化を目指す学類への情報提供として、オンライン英語授業はどのような英語力の学生に有効なのか、コロナ禍でのオンライン GS 言語科目に関する研究結果から報告する。最後に、SGU 最終年に向けてもう一押し EMI 科目を増やす場合、EMI 推進教員でなくても取り組める開講アイデアを紹介し、全体討論へとつなげる。</p>
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>学内 EMI 科目に関する共同研究結果の報告 (教員と学生へのアンケート調査)</li> <li>BROWN DALE COLIN (国際基幹教育院外国語教育系 准教授) 学生インタビューから見える事 (EMI 科目に関する学生コメントの紹介)</li> <li>(菅野 磨美 国際基幹教育院外国語教育系 助教) オンライン教材を使った学生英語力の伸びに関する研究結果の報告 (GS 言語科目を例に)</li> <li>(家口 美智子 国際基幹教育院外国語教育系 教授)</li> </ul> </li> <li>・アイデア紹介           <ul style="list-style-type: none"> <li>EMI 科目の実施アイデア (大藪 加奈 国際基幹教育院外国語教育系 教授)</li> </ul> </li> </ul>

### 1-3 FD委員会の活動



アンケート ・ EMI 科目に対する学生の状況がよく理解できました。  
 結果 抜 粋 ・ さまざまなスタイルの EMI の提案はありがたいです。反転授業を進めたいと思います。

#### 第 4 回全学 FD 研修会 FD 活動報告書成果発表会

主 催	教育企画会議専門委員会 F D 委員会, 教学マネジメントセンター
日 時	令和 4 年 10 月 28 日 (金) 13 時 30 分~15 時 45 分
会 場	Zoom によるオンライン開催
参 加 者	61 名
概 要	金沢大学では、毎年部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動について「金沢大学 FD 活動報告書」としてまとめ、公開することで、活動の共有と振り返りを図っている。令和 3 年度 FD 活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組みを紹介しており、部局を越えて参考になる事例が多い。今回、今回、先導学類、学校教育学類、地域創造学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類及び薬学類（創薬科学類）における FD 活動を全学的に共有する。
プログラム	「FD 活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的 FD の取組事例ー (ファシリテーター: 堀井 祐介 教学マネジメントセンター 教授)
アンケート	・各学類の特色ある取組みを聞くことができ、参考になりました。
結果 抜 粋	・自分の学類でも役にたつと思われた。

#### 英語による授業担当者のための FD 研修会

主 催	授業科目英語化に関する WG, 教育企画会議専門委員会教務委員会, 教育企画会議専門委員会 FD 委員会
概 要	本研修会は、英語による授業科目の拡充の取組の一環として、英語で教えるために必要な英語表現, スキル, 手法を学ぶことに特化した内容を実施する。
会 場	オンライン開催
参加者数	延べ 38 名
日 時	令和 5 年 2 月下旬~3 月 各コースにつき 1~2 日 (6 時間)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義とプレゼンテーション (導入)</li> <li>・ 講義とプレゼンテーション (発展)</li> <li>・ 少人数クラスのプランニングとマネジメント</li> <li>・ アカデミックライティング (導入)</li> </ul>

### 1-3 FD委員会の活動

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミとディスカッショングループ</li> <li>・発音と Global Englishes</li> </ul>
アンケート 結果 抜 粋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論をリードするために使用する多くの定型文を学ぶことが出来た上に、短時間であるトピックについての自分の考えを英語でまとめる訓練ができた。</li> <li>・普段見逃しやすい英語の重要なところを再度スキルアップできるきっかけになった。</li> <li>・論文の構造を改めて学べたので、卒論指導でも活用できそうだと思います。</li> </ul>

#### 令和4年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」採択校合同シンポジウム 「知識集約型社会における新しい大学教育の姿～文理融合という横糸と高大院接続という縦糸で織りなす人材育成～」(「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)

主 催 金沢大学（幹事校）、新潟大学、信州大学、大正大学、東京都市大学、麻布大学、千葉大学、早稲田大学、名古屋商科大学

日 時 令和5年3月14日（火） 13時00分～15時00分

会 場 対面、Zoomによるハイブリッド開催

参 加 者 127名（他大学の参加者を含む）

概 要 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」は、今年度で事業3年目を迎え、メニューⅠ・Ⅱ採択校にとっては中間評価の年度に当たる。本シンポジウムは本事業が折り返し地点に差し掛かる中で、知識集約型社会における大学が果たすべき使命や役割、さらには、求められる人材育成のあるべき姿について改めて見つめ、考える機会を設け、今後の事業取組の更なる発展に繋げることを目的に、採択校9大学が共同主催する。

プログラム 内容

- ・「文理横断・文理融合教育の行方～中央教育審議会大学分科会大学振興部会の議論を踏まえて～」(講師：川嶋 太津夫 大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター長・特任教授)
- ・「知識集約型社会に求められる人材育成とは～文理融合・高大院接続の観点から～」(講師：野村 純 千葉大学 教育学部アジア・アセアン教育研究センター長・教授)
- ・意見交換・クロージング



アンケート  
結果 抜 粋

- ・千葉大学のリアルな学びの在り方とそれがどのように組み立てられているのかの一端に触れることが出来ました。
- ・様々な先進的な取り組みについて知ることができ、非常に有益なご講演でした。
- ・文理融合教育の現場の状況がよくわかりました。
- ・千葉大学の高大院接続の優れた取組がよくわかり参考になりました。



1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和4年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会（1-3）及び各部局等のFD研修会（後掲：2-5）も多数実施された。

その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、紹介する。

【学域等及び研究科単位】

学域(人間社会学域, 理工学域, 医薬保健学域), 研究科(人間社会環境研究科, 自然科学研究科, 医薬保健学総合研究科), 国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
人間社会学域	<p>令和4年度は人間社会学域として2回のFD研修会を実施した。</p> <p>第1回目は, 令和4年9月29日に学校教育学類以外の教職課程認定を受けている学類を対象に, 「教職課程履修指導の17のポイント」と題し, 教職に関するWG座長を講師に, 教員免許取得のための基本的な履修指導ができることを目指した研修を行った(出席者数: 教員24名, 事務職員7名)。</p> <p>第2回目は, 令和5年2月17日に, 国際教育のひとつとして海外とのネットワークによるオンラインを利用した「COIL(Collaborative Online International Learning)型教育」についての研修会を実施した。</p> <p>最初に, 信州大学・仙石祐先生によるCOIL型教育の定義・発展, 並びに国内動向や先端事例の解説が施された。引き続き本学の事例として, ドイツとの協働運営に関する準備や実際の授業における学生の反応, 授業内外における5事例から得られたCOIL型教育推進に関する気づき・課題, 簡素なステップとして国際交流の延長としての促しについての紹介がなされた(出席者数: 教員22名, 事務職員2名)。</p>
理工学域 自然科学研究科	<p>理工学域・自然科学研究科では, 3月27日(月)13時からオンラインにて第14回理工FDシンポジウムを開催した。新型コロナにより各教員は様々な授業形態のスキルを身につけてきた。これから, 様々なオプションの中でどの講義形態を活用するか判断が重要になってくると考え, 「授業形態と学習効果」の関係を考えるシンポジウムを開催した。参加者は70名であった。本シンポジウムでは,</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からの事前アンケート</li> <li>・特別講演</li> </ul> <p>の2つを軸とした。まず事前に教員からご自身の授業形態に関するアンケートを実施し, 教員間で現状を共有した。その後, 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター教授 榊原 暢久先生に, 「対面授業とオンライン授業の二項対立からオンラインを活用した授業へ」という題目で特別講演をいた</p>



1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	<p>だき、対面かオンライン化という二項対立を超えて、学生がいかに学ぶかを優先事項におき、オンラインを活用した授業の可能性について具体的な例を挙げてもらいながら、来年度以降の講義でやってみたいことを参加者と意見交換を行った。</p>
<p>医薬保健学域 医薬保健学総合 研究科</p>	<p>医薬保健学域医学類及び医薬保健学総合研究科医学系では、医学類FD委員会が中心となり、医学系FD研修会を今年度に計13回開催した。研修会の対象は、主に医学系及び附属病院、保健学系の教員である。開催形式は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、昨年度同様に完全オンラインで実施した。研修会の内容は、医学類の教育理念・3つのポリシー・カリキュラム、アクティブ・ラーニング手法、ウィズコロナでの講義・臨床実習、教職協働、DX、学生評価、シラバス、授業の英語化、学生支援、患者安全、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂といった医学教育に関する広範なテーマを扱った。研修会の講師として、学外の医学教育専門家や学内の様々な部署に御講演いただいた。結果的に、今年度の医学系FD研修会の参加者数は延べ502名となり、過去最多を記録した。また、研修会を当日に受講できない参加者に対しては、LMS上での医学系FD研修会のオンデマンド配信を継続している。</p>
<p>人間社会環境研 究科</p>	<p>令和4年度はFD研修会の回数を増やし取組みを強化した。第1回FD研修会（令和4年7月4日、31名参加）では、QEの新制度についての指導方法についてアメリカの大学院制度と比較した報告を元にして議論を行い、QEでの学生指導について検討を行った。また、第2回FD研修会（令和4年8月24日、31名参加）では、大学院修了後の進路について人材派遣会社担当者からの見解報告を聞き、教員との意見交換を行うことにより、学生への進路指導に役立つ情報を共有し教員間で議論した。また、大学院進学に関する学生意識調査を人間社会学域の全学類の学生と、人間社会環境研究科博士前期課程及び法学研究科法学・政治学専攻の在学者に対して令和4年12月に実施した。意識調査アンケートの結果について、第3回FD研修会（令和5年3月8日、41名参加）を開催して結果の分析を行い、現状の把握と将来の課題について情報共有することができた。</p>
<p>国際基幹教育院</p>	<p>国際基幹教育院は、スキルアップセンターの廃止に伴い、国際基幹教育院FD委員会を2022年度に設立した。国際基幹教育院は、GS教育系と外国語教育系から成り、共通教育という大きな枠組みを共有しながら一般教養科目と語学科目という個別の枠組みを有している。GS教育系FDと外国語教育系FDが融合した国際基幹教育院FD委員会では、各系と共催する形でFDを実施することとし、可能な限り互いの系に還元できるテーマでFDを実施することを目指した。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域を網羅して</p>

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	<p>おり、他の学類と比較すると科目の多様性・個別性・特殊性が非常に強い。また、外国語教育系はTOEIC, EAP, 初習言語と分かれ、特に初習言語は英語学修とは異なる個別性がある。そのような中、2系で共有できるテーマとして、本年度は3回の国際基幹教育院FD研修会を実施した。</p> <p>総合教育部は国際基幹教育院内に設置されており、文系・理系一括入試に合格した学生が1年間所属する組織である。総合教育部の学生は1年次の間に移行先学類を決めるため、不安や悩みを抱える学生が多数存在する。総合教育部では担任教員とアカデミック・アドバイザーが、定期面談や個別相談を通して総合教育部学生の学生生活や学類移行を支える体制を取っている。今後の活動としては、総合教育部の円滑な運営を補助するFDを教員と学生を対象に行っていきたいと考えている。</p> <p>■第1回国際基幹教育院FD（令和4年10月13日、21名参加）</p> <p>障がいのある学生の受講にあたり、どのような対応が求められるのか、どこまでの配慮をする必要があるのか等、支援を考える際に基本となる考え方を障がい学生支援室の委員であるGS教育系の濱田里羽先生が講演し、意見交換を行った。</p> <p>■第2回国際基幹教育院FD（令和4年12月15日、26名参加）</p> <p>オンライン形式で「健康科学」を受講した経済学部の学生（当時1年生）が統計を基盤とした医学研究に興味を抱き、GS教育系唐島准教授の指導の下で研究活動を開始した。その研究成果が翌年に査読を有する国際医学雑誌に掲載された事例について報告され、意見交換を行った。</p> <p>■第3回国際基幹教育院FD（令和5年2月21日、98名参加）</p> <p>厚生労働省は睡眠分野における国民の健康づくりのための取組として、「健康づくりのための睡眠指針2014」を策定しているが、教育現場において睡眠の重要性はどれだけ理解されているか疑問である。教育者や研究管理責任者が最新の科学的な睡眠に対する知識を持つことは、質の高い教育力の持続や研究の実行力や完遂性を高めることにつながる。米国スタンフォード大学医学部精神科教授・スタンフォード睡眠・生体リズム研究所所長である西野精治先生により、睡眠と健康に関連する研究成果が発表され、意見交換が行われた。</p> <p>■【大学コンソーシアム石川】教職員研修専門部会 令和4年度FD・SD研修会（令和5年3月8日）</p> <p>学域GS科目の英語教材の活用、英語で実施する一般教養科目の難しさ、可能性、工夫についてGS教育系の小林恵美子教授、菊谷まり子准教授が講演した。</p>

**【学類単位】**

今回は、人文学類、国際学類、地球社会基盤学類、保健学類及び国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動を紹介する。

○人文学類

取組名称	人文学類FD研修会
開催日	令和4年10月19日
参加人数 (概数)	延べ30人

附属図書館ライティングセンター、クオン・ヒージョン先生に講師をお願いし、英語レポート・ライティング指導法の講習会を実施し、あわせてライティングセンターの利用案内と指導事例の紹介をしていただいた。当日は高山学類長以下、およそ30名の教員が参加した。

初めに情報部情報サービス課の橋課長から金沢大学附属図書館ライティングセンターの概要と利用案内について説明していただいたのち、クオン先生の方から、学生に英文レポートを作成させ、それを適切に添削する際のポイントなど、実践的な指導法を講習していただいた。また、附属図書館ライティングセンターの利用法や各教員の授業との連携策等を知ることができたのも有益だった。講演後、質疑応答を行った。



当日のクオン先生の講演の様子

## ○国際学類

取組名称	国際連携教育としてのCOIL/VE型授業の事例紹介
開催日	令和5年2月17日（金）
参加人数 （概数）	24名

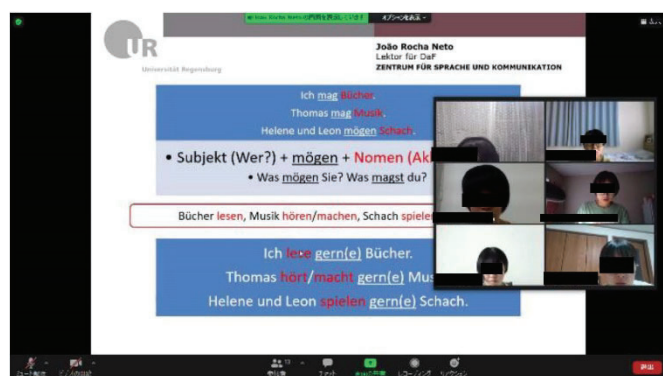
人間社会学域では、国際教育のひとつとしてCOIL（Collaborative Online International Learning）型授業の試行を検討しており、当該内容をテーマに学域FD委員会を主催、国際学類も共催という形でFD研修会を開催した（人文学類も共催）。

COIL型とは、海外とのネットワークによるオンラインを利用した教育形態であり、一部の国内大学でも取り組まれているが、本学でもCOILに関する緩やかな解釈のもとで（VE：Virtua Exchangeの一形態として）、経験のある教員により、これからの取り組みの参考として、いくつかの事例を中心として研修を行った（国際学類から、専任教員1名、準専任教員1名から事例紹介を行った）。

国際学類として、授業科目内での部分的な国際教育の可能性という点などからも、今後、積極的に取り組んでいく予定である。

## 狭い意味でのコイル (Collaborative Online International Learning)

- ・ 海外の大学との共同・連携授業
- ・ 同じ教育目標に立っている
- ・ 正規のカリキュラム上に位置付けられている
- ・ オンタイムで双方向
- ・ 学生が主体的に参画する授業方法



## ○地球社会基盤学類

取組名称	地球社会基盤学類 FDシンポジウム
開催日	令和4年10月31日 2限 (10:30~12:00)
参加人数 (概数)	25人

今年度はオンライン (Zoom) にて学類 FD シンポジウムを開催した。テーマは「DX」とし、授業に DX を取り入れている教員からの話題提供、学類内優秀教員の講演、JABEE 関連の情報共有を行った。

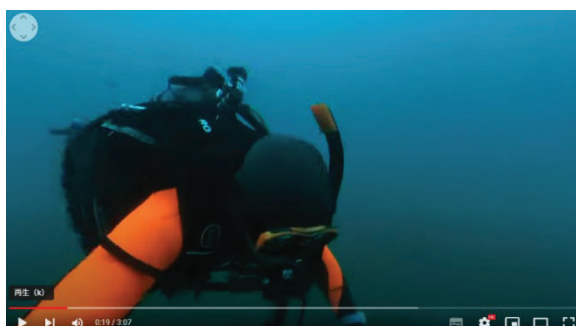
## ●教育を中心とした DX の取り組み 西山宣昭 教授

8月31日に Zoom にて開催された学術メディア創成センターシンポジウム 2022 「メタバースを活用した教育 DX」の配信済み動画を視聴した。

## ●DX に関する話題提供 ジェンキンス ロバート 准教授

・VR 空間 (cluster)における一般講演 (アバター利用の双方向性のある VR 環境での講演)

- ・360° 映像による任意視点の海中フィールドワーク
- ・福井バーチャル恐竜展について
- ・DX によるフィールド実習の可能性について



## ●優秀教員による話題提供 (その1) 山口裕通 助教

データサイエンス科目 (確率統計学) において、Python や Google Colab を活用したプログラミングを併用した授業の進め方について講演があった。

## ●優秀教員による話題提供 (その2) 高山雄貴 准教授

研究室におけるゼミ、ミーティングの進め方として、学生が主体となった運営をすることにより、プレゼンテーション能力が向上した旨の講演があった。また、コロナ禍において、Gather town を活用したゼミのオンライン化を試行したアイデアについても説明があった。

## ●JABEE 関連の情報共有 由比政年 教授

JABEE 評価に必要な卒業生アンケートの結果について説明があった。



## ○保健学類

取組名称	令和4年度第1回保健学系FD研修会
開催日	令和4年10月5日（水）
参加人数 （概数）	65名

令和4年度に保健学類では「学習意欲向上に導く支援」「こころの健康とゲートキーパー」「ハラスメント防止」に関するFD研修会を実施した。

第1回は、融合研究域融合科学系の金間大介先生に「現在の大学生の特徴から見えてくること ～学習意欲向上に導く支援を目指して～」と題してご講演いただいた。現在の若者を象徴する「いい子症候群の若者たち」の特徴や行動の傾向を紹介いただき、学生の自律的学習意欲を向上させるために、自己成長を実感できる支援を行っていくべきであるという点をご提案いただいた。本学類の学生は、各種医療関係職種の国家試験合格を目指しているという点に独自性があるが、国家試験合格だけでなく、学生が自ら学び考える意欲や態度を育めるような支援を目指す必要性を改めて認識した。

また、令和4年度も学生が選ぶ「優秀教育教員表彰」を実施した。この制度が学生の自律的学習意欲を高める教育の実践につながっている。





## ○国際基幹教育院

取組名称	令和4年度第3回国際基幹教育院FD研修会
開催日	令和5年2月21日
参加人数 (概数)	研修会98名 (対面40名, オンライン58名)

国際基幹教育院は、GS教育系と外国語教育系から構成されており、共通教育という大きな枠組みを共有しながら、一般教養科目と語学科目という個別の枠組みを有している。GS教育系FDと外国語教育系FDが融合した国際基幹教育院FD委員会では各系と共催する形でFDを実施することとし、可能な限り、互いの系に還元できるテーマでFDを実施することを目指した。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域を網羅しており、他の学類と比較すると科目の多様性・個別性・特殊性が非常に強いと言える。また外国語教育系はTOEIC, EAP, 初習言語と分かれ、特に初習言語は英語学修とは異なる個別性がある。そのようななか2系で共有できるテーマとして、本年度は3回の国際基幹教育院FD研修会を実施した。

睡眠には心身の疲労を回復する働きがあり、睡眠が量的に不足したり、質的に悪化したりすると健康上の問題や生活への支障が生じる。厚生労働省は、睡眠分野における国民の健康づくりのための取組として「健康づくりのための睡眠指針2014」を策定しているが、教育現場において睡眠の重要性はどれだけ理解されているかは疑問である。教員自身の健康管理だけでなく、研究や課題を実施に対する学生への睡眠時間に対する配慮も大切なことである。教育者や研究管理責任者が最新の科学的な睡眠に対する知識を持つことは、質の高い教育力の持続や研究の実行力や完遂性を高めることに繋がる。第3回国際基幹教育院FD研修会では、米国スタンフォード大学医学部精神科教授・スタンフォード睡眠生体リズム研究所所長西野精治先生を講師に招き、睡眠と健康に関連する研究成果の解説と意見交換を行った。

金沢大学国際基幹教育院FD研修会 (全学教員対象)  
共催：融合学域、教学マネジメントセンター、保健管理センター

**スタンフォードと睡眠医学  
—最高の睡眠で最幸の人生を—**

日 時：2023年2月21日(火) 13:00~14:30  
参加方法：総合教育講義棟2階A1講義室への出席  
または Zoom によるオンライン参加

※参加者は、右のQRコードより参加申し込みを行ってください。  
(参加申し込み期限：2023年2月17日(金))  
後日、ミーティングリンク(URL)・ミーティング番号パスワード情報をご連絡します。途中参加・途中退出可能です。

睡眠には、心身の疲労を回復する働きがあります。睡眠が量的に不足したり、質的に悪化したりすると健康上の問題や生活への支障が生じます。自身の健康管理だけでなく、研究や課題に取り組む学生への睡眠時間に対する配慮も大切なことです。教育者が最新の科学的な睡眠に対する知識を持つことは、質の高い教育力の持続や研究の実行力を高めることに繋がります。西野精治先生は、長年、米国スタンフォード大学で精力的に研究活動を行う中、2017年3月に『スタンフォード式最高の睡眠』を出版され、ベストセラーとなっています。本講演は、全学教職員対象のFD講演会です。西野先生と金沢大学との出会いが、「最高の睡眠で、最幸の人生を」送るきっかけになることを信じております。

【プログラム】  
司会：滝野隆久 国際基幹教育院GS教育系 教授  
1. 挨拶 澤田茂保 国際基幹教育院長  
2. 講演  
**西野 精治 先生**  
米国スタンフォード大学医学部精神科 教授  
スタンフォード睡眠・生体リズム研究所 所長  
(座長：唐島成宙 国際基幹教育院GS教育系 准教授)  
3. 質疑応答

問合せ先：国際基幹教育院外国語教育系 教授 趙菁 (内線5851)  
zhaojing@staff.kanazawa-u.ac.jp

1-5 教学マネジメントセンターの活動

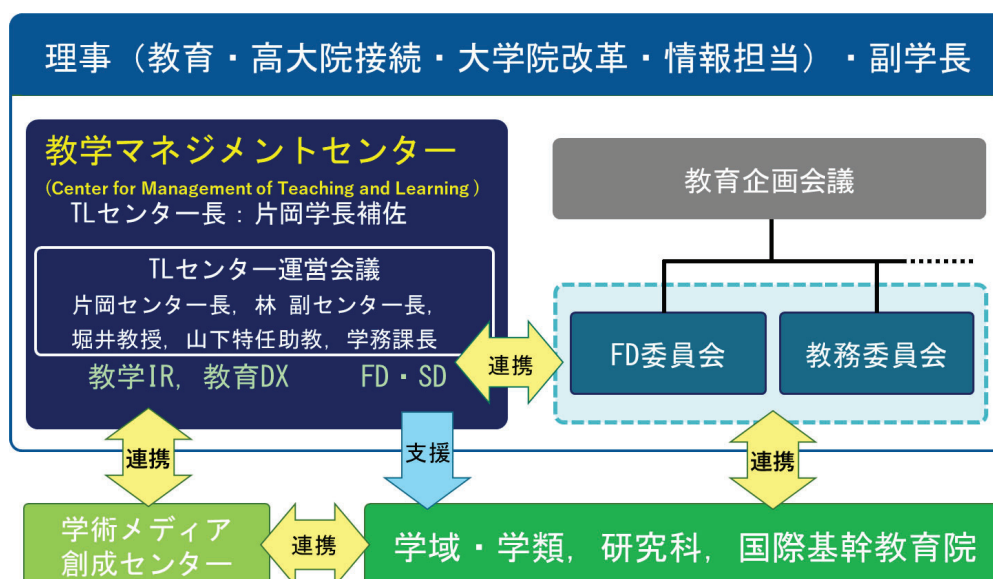
1-5-1 教学マネジメントセンターの業務概要

学長のリーダーシップの下、本学のFD支援、教学マネジメントを担ってきた国際基幹教育院高等教育開発・支援系及びICT教育支援を担ってきた総合メディア基盤センターを発展的に解消し、新たに令和3年4月に教学マネジメントセンター及び学術メディア創成センターを設置し、両センター連携によりFD、教学IR、教育DXを一体として推進する体制を構築した（図表1参照）。

学内のマネジメント体制強化のため、教育担当理事の下に置く組織として位置付け、学内の連絡・調整を円滑にするため、全学の教務委員長・FD委員長を務める学長補佐をセンター長に据え、センターの業務を掌理する体制とした。本事業で雇用する特任助教に加え、管理体制の強化、持続可能な体制構築のため、学長戦略ポストを用意し、他大学でプログラムコーディネーター、教学マネジメントで豊富な実績を有する常勤の専任教授1名を新たに雇用し、センターの専任とした。

教学マネジメントセンターの具体的な所掌業務は、以下のとおりである。

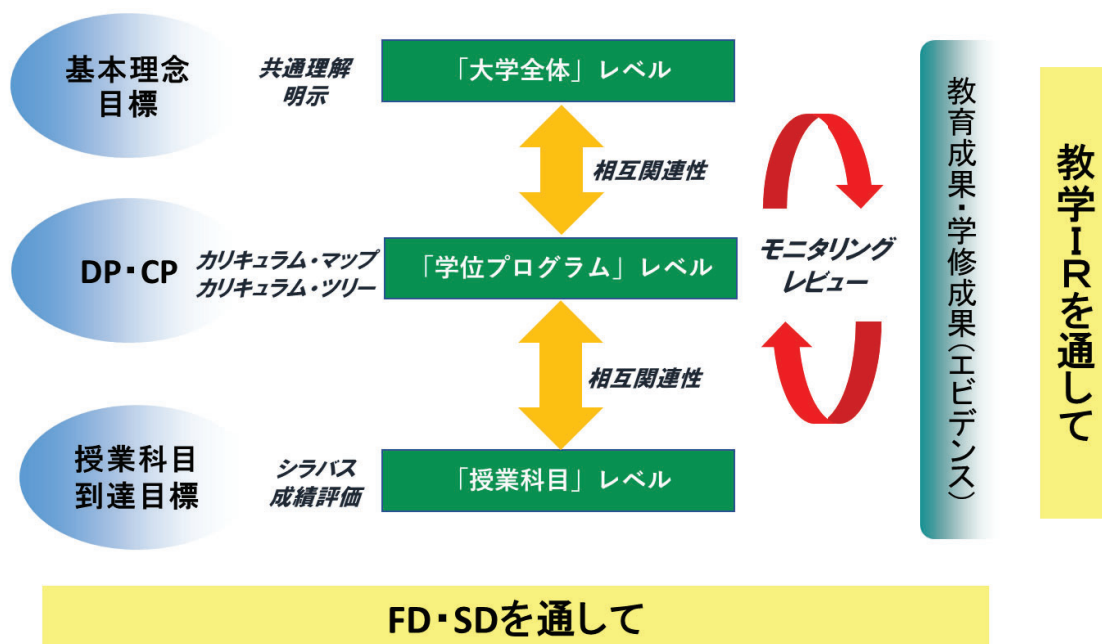
- ① 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- ② 教育方法、教育システム及び教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- ③ 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- ④ 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- ⑤ 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。



図表1 教学マネジメントセンターの設置及び関係組織との連携体制

教学マネジメントセンターの諸活動を始めるにあたり、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）に示された「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに応じた教学マネジメントの枠組を図表 2 のとおり体系づけながら、各レベルに応じた FD・SD、教学 IR の環境整備と具体的取組を進めている。

### 教学マネジメントセンターの所掌業務①



### 教学マネジメントセンターの所掌業務②

項目 レベル	教育理念 学修目標	FD・SD (教育改善・組織 開発・学生支援)	教学IR (学修成果測定・ 分析・情報公表)	支援業務
大学全体 (マクロ)	金沢大学憲章 KUGS	全学FD研修会 新任教員説明会 など	学生生活実態調査 など	中期計画(教学) 認証評価(教学) 大学間連携事業 など
学位プログラム (ミドル)	学位授与方針(DP) 教育課程編成方針(CP)	全学FD研修会 学域・学類FD など	卒業時調査 など	分野横断型学位プロ グラムの企画運営 など
授業科目 (ミクロ)	到達目標 ルーブリック評価	FDワークショップ FDランチョン CLA研修 など	学生授業評価 など	コンテンツ作成 学修アドバイジング など

図表 2 教学マネジメントセンターの所掌業務の概要図

### 1-5-2 FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年4月に、教学マネジメントセンターが設置されたことに伴い、理事（教育・高  
大院接続・大学院改革・情報担当）及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のも  
と、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っ  
ていく必要がある。このため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理し  
ながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化した。

#### 【「全学FD・SD」の役割と基本メニュー】

##### ①「全学FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働，教職学協働のための場づくり

##### ②「全学FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表3 全学FD・SDの年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

#### 【「部局FD」の役割と基本メニュー】

##### ①「部局FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

## 1-5 教学マネジメントセンターの活動

### ②「部局FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催でのFD活動について、以下の二つの区分に整理した。

- ア) 個別テーマ型FD・・・部局における主要事項の理解と共有、部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として、当該部局が独自のテーマ設定により実施するFD
- イ) 統一テーマ型FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的とし、教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施するFD  
(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、機関別認証評価で求められる学位プログラム単位のDP・CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和4年度においては、FD委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学FD研修会に加え、先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)が本格実施されたことから、教職学協働型のKU-STEAMランチョンセミナーを新たに企画実施した。また、高大接続コア・センターと共同主催にて「探究・STEAMフェスタ」という高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。これらの取組は令和5年度以降も更に発展充実していく予定である。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。なお、令和4年度下半期からは対面実施が増えつつあり、対面とオンラインそれぞれのメリットを活かしながら効果的なFDの機会を提供していきたい。

令和4年度全体のFD・SD実績は以下のとおりである。

図表4 令和4年度FD・SD実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日(月) 午前の部 4月4日(月) 午後の部	57名 111名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計14回開催	426名
ピア・サポート入門ミニセミナー 「ピア・サポートを始めるために知っておくこととは」	7月20日(水)	10名
全学FD研修会 「ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現」	8月8日(木)	131名 (学外公開)
全学FD研修会 「金沢大学EMI科目(英語による科目)の現状と今後の展望 ---SGU 最終年に向けて今できる科目開講のアイデア---	9月28日(水)	87名
全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会	10月29日(金)	61名
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2022 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月11日(日)	83名 (学外公開)
教学マネジメントセミナー2022 「教学マネジメントのあるべき姿を考えよう！ ～自律的学修者を育てるために～」	12月22日(木)	136名 (学外公開)
令和4年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」 採択校合同シンポジウム	8月14日(火)	127名 (学外公開)



### 1-5-3 学位プログラムレベル・授業科目レベルを中心とした教学マネジメント環境整備

教学マネジメントセンターでは、創設2年目に当たる令和4年度において、学位プログラムレベル、授業科目レベルを中心とした教学マネジメントに関する基本的な環境整備を進めた。

具体的には、前年度に受審した大学基準協会による機関別認証評価で指摘された改善事項の対応等の必要性から、DP・CPを中心とした3つのポリシーの見直しを行うとともに、シラバスの記載項目の見直し、さらには、大学院学生版トランスファラブルスキルの策定に向けて検討を行った。

#### 1-5-3-1 3つのポリシーの全学的見直し

##### 【DP及びCPの記載に関する改善課題】

- (1) 中央教育審議会大学分科会大学教育部会『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」の策定及び運用に関するガイドライン』（平成28年3月31日）（以下、『3つのポリシーに関するガイドライン』という）に沿ったディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）の作成が不十分な点が見られた。具体的には、DPで求められる「学生が身につけるべき資質・能力の目標」の明確化（「何ができるようになるか」の具体的に示すこと）の再確認が必要である点、CPで求められる主要3項目（「教育課程編成」「教育課程における学修方法・学修過程」「学修成果の評価」のあり方等を具体的に示すこと）のうち、「学修成果の評価」の記載が欠落している点であった。
- (2) 令和3年度機関別認証評価結果では、指摘された学域学類・研究科専攻において、授与する学位ごとにDP・CPが書き分けられていない点、CPで求められる「教育課程編成」または「教育課程における学修方法・学修過程」の具体的記載がない点の改善が求められた。

##### 【再整備事項】

- (1) 『3つのポリシーに関するガイドライン』の趣旨に則り、各ポリシーの一貫性・整合性を考慮する観点から、新たに、当該学位プログラム単位の3つのポリシーに関するテンプレート（図表5参照）を提示し、その記載項目に沿って、3つのポリシーの該当項目の記載・見直しを行った。
- (2) 学類・専攻において、授与する学位が複数存在する部局にあつては、授与する学位ごとにテンプレートへの各ポリシー記載を行った。これにより、授与する学位に関する教育プログラム（学位プログラム）ごとに3つのポリシーを整理することが可能となった。
- (3) テンプレートへの各ポリシー記載について不明な点がある場合には、教学マネジメントセンターが相談対応し、適宜、必要なコンサルテーションを行った。

## 1-5 教学マネジメントセンターの活動

図表5 金沢大学「3つのポリシーテンプレート」

金沢大学「3つのポリシーテンプレート」		
<p>【策定単位】 ●●学域（研究科） ●●学類（専攻・コース） ※DP・CP策定の最小単位ごとに別業で作成。かつ、授与する学位が複数存在する場合には授与する学位ごとに別業で作成ください。            【授与する学位】 学士・修士・博士・専門職学位（●●） ※カッコ内に専門分野を明記してください。</p>		
大学（大学院）の目的 ※学則、大学院学則から引用		学類（研究科）の教育研究上の目的 ※学類規則、研究科規則から引用
ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 <small>本学〇〇学類【研究科】は、…といった人材【研究者、社会人、市民】を育成することが社会から期待されている。</small> <small>本学類【研究科】では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、（かつ研究指導を受けた上で、）〇〇論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、〇〇の学位を授与する。</small>	【教育課程編成に関する基本的考え方】 <small>本学類【研究科】では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。</small>	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
【学生が身に付けるべき資質・能力】（※「学生が何ができるようになるか」を分かりやすく具体的に記載（シラバスの学修目標のような記載の仕方にも心がける）） (1) …… (2) …… (3) …… (4) …… (5) …… ……	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1. 教育内容 (1) …… ●カリキュラムを通じた具体的な授業科目構成と教育内容を記載。 ●科目群では、～の内容を学ぶ、など 2. 教育方法 (1) …… ●教育目標達成のために採用する具体的な教育方法を記載。 ●フィールドワークを重視している、など 【学修成果の評価】 (1) …… ●教育内容・教育方法に即した多様で柔軟な評価方法を網羅的に記載。 ●各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。卒業研究の評価は●●によって行う。卒業時に質問紙調査を行っている、など	【求める人材】
		【選抜の基本方針】
		【入学までに身に付けて欲しい教養・科目等】

### 【体系的な再整備を行う上での前提情報】

『3つのポリシーに関するガイドライン』に基づき、3つのポリシーの定義付けが明示され、かつ、3つのポリシーの公表が義務化された。なお、3つのポリシーの公表の義務化（根拠規定：学校教育法施行規則）については、学士課程は平成29年4月から、大学院課程については令和2年4月から適用されている。

『3つのポリシーに関するガイドライン』では、下表のとおり、各ポリシーの基本的な考え方を定義しつつ、3つのポリシーの一貫性・整合性に加え、それぞれのポリシーに書き込むべき項目が具体的に列挙されているので、それに従って確認を行った。

図表6 3つのポリシーの基本的な考え方の定義

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。 ※（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度



### (総論)

- 各大学における教育研究の特性を踏まえ、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一貫性・整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係を分かりやすく示し、大学内外に積極的に発信すること。
- 当該大学に関心を持つ様々な関係者（多様な入学希望者、学生、父母等、高等学校関係者、地域社会、国際社会、産業界等）が十分に理解できるような内容と表現とすること。

### (ディプロマ・ポリシーについて)

- 各大学の教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化すること。
- 「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示すこと。その際、学士課程答申で示された「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」を踏まえるとともに、日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」等も参考とすることが考えられること。
- 学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズも十分に踏まえた上で策定すること。

### (カリキュラム・ポリシーについて)

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示すこと。その際、能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組の充実を重視すること。
- 卒業認定・学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討を行うこと。特に、初年次教育については、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする観点から充実を図ること。

### (アドミッション・ポリシーについて)

- ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえるとともに、「学力の3要素」を念頭に置き、入学前にどのような多様な能力をどのようにして身に付けてきた学生を求めているか、入学後にどのような能力をどのようにして身に付けられる学生を求めているかなど、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方について、できる限り具体的に示すこと。また、必要に応じ、入学前に学習しておくことが期待される内容についても示すこと。
- 入学者選抜において、アドミッション・ポリシーを具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用するのか、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか等を具体的に示すこと。

## 1-5-3-2 シラバス記載項目の見直し

『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会 2020)において、授業科目レベルの教学マネジメント中核として、シラバスのあり方が以下のとおり記載されている。

新任教員研修会をはじめとして、シラバスの書き方に関するFD活動、マニュアル作成は教育の質保証を図る上で欠かせない事項である。また、近年では、令和2年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「カリキュラム編成上の工夫の状況」として、シラバスに「準備学修に必要な学修時間の目安」を設定することが提示され、当該事項は、以下の『教学マネジメント指針』本文に反映されている。

さらに、本学が令和2年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」において、授業科目シラバスの記載内容がチェックされており、改めて、本学のシラバス記載項目について、他大学の現状も参照しながら、点検及び改善を行う必要がある。

≪『教学マネジメント指針』Ⅱ 授業科目・教育課程の編成・実施 p.20≫

○ シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である。米国では、教員と学生の契約書と理解されている例もある。単なる講義概要(コースカタログ)にとどまることなく、学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」における当該授業科目の位置付けや他の授業科目との関連性の説明、学生が事前準備のための学修や事後の発展的な学修を主体的に行う上での指針とすることができる事前・事後学修の指示を含み、授業の行程表として機能するとともに、「何を学び、身に付けることができるのか」(到達目標)を明確に定めることで適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成される必要がある。具体的には、

- ・ 授業科目の目的と到達目標
- ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の到達目標の関係
- ・ 授業科目の内容と方法
- ・ 授業科目の計画
- ・ 成績評価基準
- ・ 事前学修と事後学修の内容

等を盛り込む必要がある。なお、事前学修及び事後学修については、これらに必要な学修時間の目安を示すことも考えられる。また、到達目標の達成状況を定量的又は定性的な根拠に基づき評価することができるよう、到達目標を定めるに当たっては、例えば「学生は、～することができる」といった形式で記述することも考えられる。

## 【一部見直しした項目】

## (1) 学修目標(到達目標)の項目の精選

現状において、「授業主題」「授業目標」「学生の学修目標」「学修成果」という項目が並んでいたが、「授業主題」に続く記載項目である「授業目標」「学生の学修目標」「学修成果」を「学修目標(到達目標)」に統合し、「授業主題」「学修目標(到達目標)」という記載項目の並びに整理した。具体的な記載方法については、記載例を示しながら、シラバス入稿要領にて周知徹底することとした。


**「学修目標（到達目標）」に修正**
**授業目標**

今現在学んでいる大学という組織に関心を深めることから、この大学での学習はスタートする。一体、大学は、どのような歴史を経て、どのような社会的影響を受けながら成り立っているのだろうか。大学は、それまで学んできた小・中・高等学校とは明らかに異なる。大学を構成する学生や教職員が多様であるだけでなく、大学が果たすべき使命や機能も非常に多様である。このような大学が持つ多様性や複雑性の醍醐味を学習を通して実感し、大学教育の機能について理解を深める。また、大学における学習者としての学生の位置付けを自覚するように努める。

**学生の学修目標**

金沢大学がどのような構成要素で成立しているかを説明することができる。  
金沢大学の歴史や制度を理解し、大学教育の方向性を説明することができる。  
金沢大学における学びの意義を説明することができる。

**学修成果**

- (1) 金沢大学を取り巻く社会情勢や国際情勢を判断し、現実を見つめる力(現状把握力・分析力・洞察力)を養う。
- (2) 主体的に大学教育の意義に関心を示し、積極的に意見を述べることができる。
- (3) 金沢大学生としてのアイデンティティを養う。
- (4) 大学が持つ多様性や複雑性を受容する力(柔軟性)を養う。
- (5) 学習プロセスにおいて、読解力・自己表現力・記述力を養う。

**図表 7 シラバスにおける「学修目標（到達目標）」の記載項目整理**
**(2) 授業時間外の学修に関する指示における「必要な学修時間の目安」の明示**

令和 2 年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち、「カリキュラム編成上の工夫の状況」として、シラバスに「準備学修に必要な学修時間の目安」を設定することが提示され、当該事項は、『教学マネジメント指針』本文にも反映されている。授業時間外の学修に関する指示（予習に関する指示，復習に関する指示）欄における「必要な学修時間の目安」の明示について，記載例を示しながら，周知徹底することとした。

**1-5-3-3 大学院教育におけるトランスファラブルスキルの策定検討**

本学では，令和 4 年度から，博士前期・後期課程における大学院 GS 科目を強化し，大学院学生が将来のキャリアに備え，幅広い識見や異分野の知識・スキルを修得することで，主たる専攻分野での深い探究に役立つことを目指している。特に，昨年度採択を受けた科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム～博士後期課程学生の挑戦を支援する～」では，博士後期課程学生が自分自身のキャリアを構築し，自立した研究者・技術者となることできるよう，「生活費相当額及び研究費の支給や，キャリア開発・育成コンテンツ（国際性の涵養，学際性の涵養，キャリア開発，トランスファラブルスキルの修得，インターンシップ等）をはじめとする様々な支援」を提供する取組を進めている。

また，令和 4 年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち，「大学教育改革に向けた取組の実施状況」として，博士前期課程・修士課程，博士後期課程・博士課程，専門職学位課程におけるトランスファラブルスキル（社会で広く活用できる汎用的なスキル）のカリキュラム上の明確化，さらには，トランスファラブルスキルを含めた学修成果の可視化や就職活動等での活用が求められている。

上記のような状況を踏まえながら，金沢大学未来ビジョン『志』milestone において，大学院教育における大学院学生版トランスファラブルスキルを策定することを行動計画として掲げている。

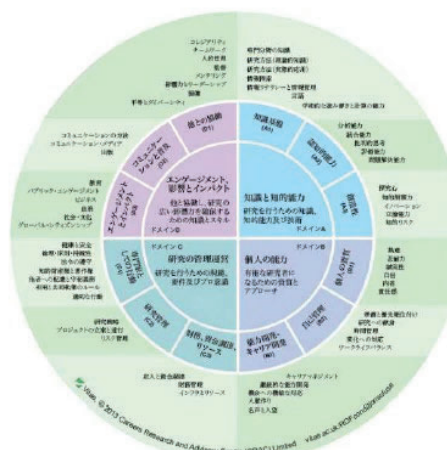
令和 4 年度国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指

標に関する文部科学省の補足説明資料では、「社会で広く活用できる汎用的なスキル（トランスファラブルスキル）」とは、例えば、欧州科学財団（European Science Foundation）の報告書“Research Careers in Europe Landscape and Horizons”（2009）では、「一つの文脈で学んだスキル、例えば、研究を行う上で学んだスキルの中で、他の状況、例えば、研究であれば、ビジネスであれば、今後の就職先において有効に活用できるようなスキルのことである。そしてまた、トランスファラブルスキルがあれば、学問領域及び研究関連のスキルを効果的に応用したり、開発したりすることができるようになる」と定義されており、そうした取組を想定しています。」と記載があり、具体的な事例として、英国の非営利組織 Vitae が 2010 年に開発した研究者人材に必要なトランスファラブルスキルのフレームワーク（RDF）を提示している。

なお、大学院教育におけるトランスファラブルスキル・トレーニングについては、2010年代に注目され、大阪大学などにおいて当該トレーニングを行っている実績がある。

**Researcher Development Framework;**

英国においてプロフェッショナル・ディベロップメントの分野で中心的な役割を担っている非営利組織 Vitae により開発された、研究者にとって必要な能力やスキル等を体系化したフレームワーク。4 つのドメイン、12 のサブドメイン、63 のディスクリプタで構成されている。ディスクリプタごとに必要スキルの詳細が定義されており、それぞれ研究者の段階（博士課程在籍者、ポスドク、卓越した研究者、シニア研究者/著名な研究者）に分けて細かく設定されている。



図表 8 Researcher Development Framework (Vitae)

**【取組の方向性】**

(1) 大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂と学生・教職員への明示

本学では、大学院課程<グローバル>スタンダードが策定・公表され、「1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考：今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力」「2. 創造性・交渉力・統率力・実践力：解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を打開する能力」が掲げられているが、内容面において、上記の趣旨を踏まえつつ、改訂を行うことが必要である。具体的には、大学院 GS 科目の学修目標と関連付けつつ、大学院学生版トランスファラブルスキルとして再定義し、学生・教職員に明示することを検討したい。

(2) 大学院学生版トランスファラブルスキルの学修成果可視化と学生への明示

大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂を踏まえながら、当該スタンダードで定



## 1-5 教学マネジメントセンターの活動

めたトランスファラブルスキルの修得度合について、博士前期課程・修士課程、博士後期課程・博士課程及び専門職学位課程の学生を対象に、学務情報システム等を通して自己評価アンケートを定期的実施することが考えられる。そして、当該自己評価結果を学生個人が同システム上において確認できるようにすることが考えられる。

併せて、大学院GS科目における授業評価アンケート等を集計・分析しながら、大学院学生版トランスファラブルスキルの修得度合を把握していきたい。

### 1-5-4 教学 IR 環境整備

令和3年度に改善充実を図った学生授業評価アンケート、卒業・修了者アンケート、卒業・修了後アンケートについては、令和3年度から令和4年度にかけて実施及び回答結果の利活用が進んでいる。

授業評価アンケートについては、新システムに移行することに伴い、回答率が大幅に改善された。現在、回答結果の集計・分析等について、BIツールを活用して可視化・閲覧できる環境整備を進めている。

卒業・修了者アンケートについては、令和3年度卒業・修了者から新しい設問内容にて実施され、教学マネジメントセンターにて集計した回答結果を部局にフィードバックし、FD活動等に活かしている。

卒業・修了後アンケートについては、本学の過去20年間の卒業・修了者を対象者に実施され、教学マネジメントセンターにて集計した回答結果をFD委員会にて報告するとともに、その一部の内容を「令和3年度FD活動報告書・資料編」に掲載・公表している。

以上の学生調査の実施体制の整備に関連して、令和4年度には、キャリア支援室と協働しながら、就業先企業アンケートを定期的に行う環境を整え、令和4年12月～令和5年1月に開催された「業界・企業研究会」に参加した企業等を対象にウェブアンケートを実施し、85社からの回答を得ることができた。

#### 1-5-4-1 新・授業評価アンケートの共通設問化について

全学での授業アンケート設問を可能な限り、共通項目化し、学生の回答負担を軽減することを考慮しながら以下の7項目を共通設問とした。

【共通設問項目】※授業評価アンケート回答画面にてシラバス検索画面を参照できるように設計。

① 授業内容の適切性

設問「この授業は、あらかじめシラバスに示された学修目標や授業計画に沿って行われましたか？」

② 担当教員の説明の仕方

設問「この授業における教員の説明の仕方は、分かりやすいものでしたか？」

③ 授業外学修時間

設問「この授業について、授業外学修（授業の予習・復習、レポート作成、試験勉強などを含む）をどれくらい行いましたか？ 総時間を平均し、授業1回あたりの時間に換算してお答えください。」

④ 授業理解度

設問「この授業の内容を、よく理解できましたか？」

## 1-5 教学マネジメントセンターの活動

### ⑤ 学修目標達成度

設問「この授業であなたは、シラバスに記載された学修目標を達成できましたか？」

### ⑥ 授業満足度

設問「この授業の内容は、満足できるものでしたか？」

### ⑦ 授業全般に関する自由記述

設問「この授業に関する感想や要望等があれば、具体的に記述してください。」

なお、上記の7設問以外に、やむを得ず、部局独自で設問したい場合には、学生が回答する際の煩雑さを極力避けたいため、部局独自設問は最小限となるように努めることとした。

### 1-5-4-2 新・授業評価アンケート導入に伴うシステム改修作業について

教育担当理事の指示に基づき、「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム (nigala)」(図表9参照)に関する情報収集を図るとともに、令和3年度第2回全学FD研修会において当該テーマを取り扱い、具体的検討を続けてきた。

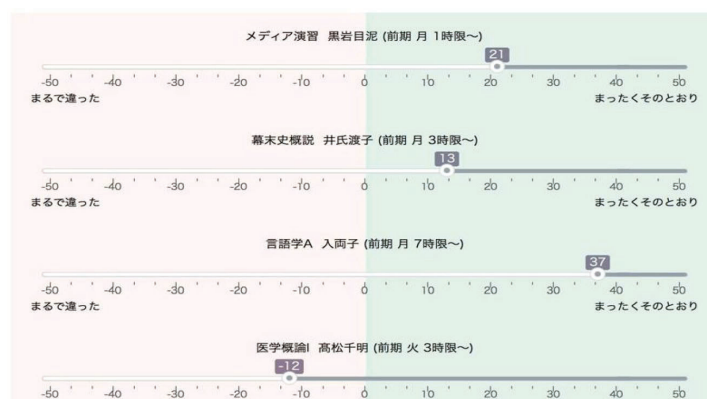
教学マネジメントセンター、学術メディア創成センター、学務課が連携した検討の結果、「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム (nigala)」を参考にしながら、本学独自の授業評価アンケート回答画面改修を行い、学務情報システムにて運用できるような措置をとることとし、具体的な改修作業に取り組み、令和4年度からの全学実施に漕ぎ着けた。

#### Web授業アンケートシステム nigala

#### Web授業アンケートの方法

-50~50までの101段階反応抽出・事実上の連続量アナログ尺度  
設問ごとに各自の履修授業全体を相対比較

残り7問：この授業は学生の理解度を把握しながら進み、全体の内容は質、量ともに適切でよく理解できた。



連続量アナログ・自由評定尺度での回答抽出により

① 微妙に差異化された反応の相違が読み取れる

② 回答者に特有な反応傾性による差異を標準化できる

図表9 お茶の水女子大学の授業アンケートシステム (nigala)

<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/enquete.html>



## 2 各部署等のFD活動

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先導学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	教務・学生生活委員長のもと、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。また、Web形式で意見交換会を開催し、融合学域の授業科目や教育方針等について教職員間で情報共有や意見交換を行った。令和3年度は設置初年度であり、今後の学年進捗とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。授業評価アンケート結果の活用、FD研修会など、情報共有・問題検討の機会のさらなる充実を図ることとする。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 FD研修会の開催を検討している。例えば、様々なオンラインツールを活用した授業方法や、ALと組み合わせた効果的な教育手法の共有など。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回融合学域FD研修会	7月25日	「現在の米国(シリコンバレー)の状況報告/教育Dx」	先導学類長, 教務・学生生活委員長 ほか21名	融合学域で実施	
第2回融合学域FD研修会	9月22日	融合学域でのFDについてのディスカッション	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか15名	融合学域で実施	
第3回融合学域FD研修会	10月20日	融合学域でのFDについてのディスカッション	教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第4回融合学域FD研修会	11月24日	秋田先生からのサバティカル報告(中国・深圳)	教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第5回融合学域FD研修会	12月22日	VBLアントレプレナーコンテスト受賞報告	先導学類長, 教務・学生生活委員長 ほか18名	融合学域で実施	
第6回融合学域FD研修会	1月26日	アカデミックスキル, プレゼン・ディベート論及び学術リテラシーの定義について	先導学類長, 教務・学生生活委員長 ほか25名	融合学域で実施	
第7回融合学域FD研修会	3月23日	学生募集・広報等のための融合学域3学類の特長・強みについて	先導学類長, 教務・学生生活委員長 ほか20名	融合学域で実施	
国際基幹教育院FD研修会	2月21日	『スタンフォードと睡眠医学—最高の睡眠で最幸の人生を—』	融合系9名	共催: 融合学域, 教学マネジメントセンター, 保健管理センター	
先導学類懇談会	12月15日	学生の留学プログラム等, 先導学類学生の教学に関する意見交換	先導学類長 ほか24名		
研究シーズ紹介	7月14日	融合研究域教員の研究紹介 非侵襲イメージング:体の中を撮し出す	融合学域長, 先導学類長, 先導学類長, 教務・学生生活委員長 ほか28名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	9月8日	融合研究域教員の研究紹介 ある社会課題の解決に向けて	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか29名	融合学域で実施	

名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
研究シーズ紹介	10月13日	融合研究域教員の研究紹介 バイオマス由来のものづくり～透明な木～	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか24名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	11月10日	融合研究域教員の研究紹介 相互作用と場をデザインするー他者の見方・考え方・感じ方を起点に	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか29名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	12月8日	融合研究域教員の研究紹介 多様な生命データを扱った経験から	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか31名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	2月9日	融合研究域教員の研究紹介 社会の合理化と文理融合	融合学域長, 先導学類長, 観光デザイン学類長, 教務・学生生活委員長 ほか30名	融合学域で実施	

### ○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	<p>融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 令和5年度以降開講のプロジェクト演習科目、鍛練科目、確立科目及び海外派遣プログラムの実施方針等について、教務・学生生活委員会及び海外留学・受入WGで継続的に審議し、教育研究会議に中間報告等を行い、融合研究域全教員から意見を集約し、検討を進めた。 教育研究会議に引き続き、融合研究域教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進捗とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。</p>

【令和4年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>令和4年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 令和5年度から融合学域3学類体制となるため、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。</p>
--

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 観光デザイン学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	—	—
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		—

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備 考	SGU
第1回融合学域FD研修会	7月25日	「現在の米国(シリコンバレー)の状況報告/教育Dx」	先導学類長、教務・学生生活委員長 ほか21名	融合学域で実施	
第2回融合学域FD研修会	9月22日	融合学域でのFDについてのディスカッション	融合学域長、先導学類長、観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか15名	融合学域で実施	
第3回融合学域FD研修会	10月20日	融合学域でのFDについてのディスカッション	観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第4回融合学域FD研修会	11月24日	秋田先生からのサバティカル報告(中国・深圳)	観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか12名	融合学域で実施	
第5回融合学域FD研修会	12月22日	VBLアントレプレナーコンテスト受賞報告	先導学類長、教務・学生生活委員長 ほか18名	融合学域で実施	
第6回融合学域FD研修会	1月26日	アカデミックスキル、プレゼン・ディベート論及び学術リテラシーの定義について	先導学類長、教務・学生生活委員長 ほか25名	融合学域で実施	
第7回融合学域FD研修会	3月23日	学生募集・広報等のための融合学域3学類の特長・強みについて	先導学類長、教務・学生生活委員長 ほか20名	融合学域で実施	
国際基幹教育院FD研修会	2月21日	『スタンフォードと睡眠医学—最高の睡眠で最幸の人生を—』	融合系9名	共催：融合学域、 教学マネジメントセンター、 保健管理センター	
令和4年度第1回観光デザイン学類ワークショップ	1月25日	令和5年度開講科目の実施について	観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか18名		
令和4年度第2回観光デザイン学類ワークショップ	3月24日	令和5年度開講科目の実施について	観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか18名		
研究シーズ紹介	7月14日	融合研究域教員の研究紹介 非侵襲イメージング：体の中を撮り出す	融合学域長、先導学類長、観光デザイン学類長、教務・学生生活委員長 ほか28名	融合学域で実施	



研究シーズ紹介	9月8日	融合研究域教員の研究紹介 ある社会課題の解決に向けて	融合学域長, 先導学類 長, 観光デザイン学類 長, 教務・学生生活委員 長 ほか29名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	10月13日	融合研究域教員の研究紹介 バイオマス由来のものづくり～透明な木～	融合学域長, 先導学類 長, 観光デザイン学類 長, 教務・学生生活委員 長 ほか24名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	11月10日	融合研究域教員の研究紹介 相互作用と場をデザインするー他者の 見方・考え方・感じ方を起点に	融合学域長, 先導学類 長, 観光デザイン学類 長, 教務・学生生活委員 長 ほか29名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	12月8日	融合研究域教員の研究紹介 多様な生命データを扱った経験から	融合学域長, 先導学類 長, 観光デザイン学類 長, 教務・学生生活委員 長 ほか31名	融合学域で実施	
研究シーズ紹介	2月9日	融合研究域教員の研究紹介 社会の合理化と文理融合	融合学域長, 先導学類 長, 観光デザイン学類 長, 教務・学生生活委員 長 ほか30名	融合学域で実施	

### ○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	<p>融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 令和5年度以降開講のプロジェクト演習科目、鍛練科目、確立科目及び海外派遣プログラムの実施方針等について、教務・学生生活委員会及び海外留学・受入WGで継続的に審議し、教育研究会議に中間報告等を行い、融合研究域全教員から意見を集約し、検討を進めた。 教育研究会議に引き続き、融合研究域教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。</p>

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和4年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。  
令和5年度から融合学域3学類体制となるため、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人文学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケート、卒業生アンケート、教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会については、コロナ禍の影響があったために当初計画をやや縮小した部分もあるが、ほぼ着実に実施している。特に授業参観については、対面型と、遠隔型(双方向とオンデマンド)との両方で実施し、FD研修会では遠隔授業の方法について一層の習熟・スキルアップができた。シラバスの点検については教務委員会の業務の一環として実施されているが、FD委員会との協働が必ずしもまだ十分とは言えない。成績評価に関しては評価基準をシラバスに明記するよう全教員に促しており、またその点検も教務委員会主導で行っているが、やはりFD委員会との協働体制がまだ十分とは言えないところがある。成績評価分布については調査結果を踏まえて学類教員で情報を共有する予定である。また、令和3年度授業評価アンケート結果も令和2年度分に引き続き学類HP上で公開した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		令和3年度の授業評価アンケートから、学生の授業時間外学修について若干の減少傾向がみられた。これを踏まえ、時間外学修を向上させるための方策を学類のFD活動として行う。教員内で蓄積されたノウハウを活かすためにFD研修会を開催し、学類教員の教育能力向上を図る。また、令和3年度の卒業生アンケートからは、プレゼンテーション能力の向上についての評価にやや低下があったので、FD委員会で対応策を検討・考案して、FD研修会等で学類教員に提案を行う。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備 考	SGU
人文学類FD研修会	10月19日	英語レポート・ライティング指導法:附属図書館ライティングセンター利用案内と指導事例紹介(ライティングセンター、クオン・ヒージョン先生の講習会)	高山学類長、上田専攻長、FD委員ほか約30名		○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	教員相互の授業参観、授業評価アンケート結果の活用、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会については、幾つかの不測の事態により、当初計画よりもやや縮小した面もあったが、ほぼ着実に実施している。特に授業参観については、対面型と遠隔型(双方向)との両方で実施した。また、FD研修会では、英語レポート・ライティング指導法について一層の理解を深めることができた。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和4年度の授業評価アンケート結果を見る限り、本学類の教育は総じて学生から高く評価されていることが分かる。今年度は、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲しつつ、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにいっそう意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会としても積極的に対応策を検討していきたいと考えている。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	ハイブリッド授業における各種デバイスの活用方法について、先端的に取り組んでいる教員の実践報告をもとにFD研修会を行った他、初学者ゼミの担当者を中心に、コロナ禍での学生の学修環境や授業に臨む姿勢について意見交換し、自発的な予習・復習を推進する方法について検討した。英語での授業の効果的实施方法についても、ほぼ毎回の学類会議で意見交換した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		高評価を得ていることから、法学研究科との連携強化等の着実な遂行を図る。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
法学類/法学・政治学専攻合同FD研修会	6月14日	リモート授業に対する学生・教員の技術的課題と、学生参加の在り方	学類長、専攻長ほか25名		○
法学類FD研修会	12月13日	学域GS言語科目のカリキュラム上の位置付け	学類長、教務委員長ほか20名		○
法学研究科・法学類合同FD研修会	12月20日	法学類・法務専攻の連携授業の中身	学類長・法学研究科長ほか32名		○
初ゼミ担当者向けFD研修会	2月14日	初年次教育を念頭に置いたTeamsの活用例と応用の可能性	学類長、教務委員長ほか、13名		○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	会議システムによるリモート授業のための注意点や可能性について、また、言語関係のカリキュラム改正をめぐる問題や、法務専攻との連携など多様なテーマについてのFD研修会を開催し、意見交換を行ったほか、リモート授業への自由な相互参観に関して申し合わせを行った。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

アンケートを見る限り、学生は概ね、現行のカリキュラムに満足していると思われるが、依然として学習時間が極端に少ない学生が見受けられるので、授業ごとに、具体的な課題を与えて、自宅での学習時間を増やすよう促すことにした。また、学生が現在、学んでいることが、社会における具体的な課題解決に繋がっていることを把握できるような事例を授業にできるだけ盛り込み、課題にも反映させるよう各教員に要請することにした。



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 経済学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 コロナ禍のなかで適切な授業運営ができるような体制を整え、さまざまな遠隔授業の方法について情報交換ができるようになった。また、教員と学生との懇談会を設けたことにより、学生側の問題点が明らかになり、教員側からの適切な指導が可能になった。以上、オンライン授業に伴う問題点を浮き彫りにし、その技術の習得と改善に積極的に取り組み「4: 大いに評価できる」と自己評価した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 ここ数年、学域GS言語科目について、学生への効果の面で授業運用や評価方法などの試行錯誤を行っている。この点で、学習方針や授業担当者ごとの運用の影響をFD研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。

【令和3年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(ローテーション科目での取り扱い内容について報告・共有した。 )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
科研費申請に関する報告会	6月2日	科研費大型種目へのステップ、審査委員からみた申請に関する報告	経済学類長, FD委員 ほか25名		
学域GS言語に関する研修会	8月4日	「学域GS言語」のシステム利用方法並びに実践報告	FD委員 ほか12名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 特に後者に関しては、学生のニーズなども聴取することでカリキュラム改訂への反映や、授業運営方法の見直しなどの議論に繋がっており、「4:大いに評価できる」とした。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

ここ数年、学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果や公平な負担感の点で授業運用や評価方法などの試行錯誤を行っている。この点で、学修方針や授業担当者ごとの運用の影響を FD 研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学校教育学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和3年度も、年間を通しコロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初の計画から若干変更せざるを得ない状況となった。特にFD研修会は当初の計画3回を下回る1回の実施となったが、県教委協力の元、学類特有の問題に焦点を絞ることができた。また、令和2年度はFD研究授業等の開催を見送ったが、令和2年度はコロナ禍でも、2回の公開授業を遂行し、実行できる範囲内で可能なことは全てできたことから、「4:大いに評価できる」と自己評価した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 令和3年度の卒業生アンケートは、新型コロナウイルス感染症感染防止のために学位記伝達式が短縮開催となったことから、アカンサスポータルから事前に回答することを予告し、学位記伝達式当日のその場にてアンケートを実施した。ほぼ昨年同様の回収率により本アンケート結果の解釈としては、学類の学修成果に基づく学習状況についての自己評価において、全ての項目で十分に達成しており、教員養成という本学類のミッションを達成できたのではないかと考えられる。なるためノートについては、コロナ禍における実施の模索があったことから、次年度以降は更なる対策を講じる必要があると感じたと同時に、富山大学との共同教育課程にマッチした内容が求められる。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(令和5年度に複数回の研究授業を実施を計画している)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和4年度第1回FD研修会	4月14日	「新しい『教師になるためのノート』の教員向け解説」	山本学類長ほか約40名		
令和4年度第2回FD研修会	5月30日	「遠隔授業システムの機器を使った接続確認と見え方の確認」	武居副学類長ほか15名		
令和4年度第3回FD研修会	8月22日	「Society 5.0時代を先導する教育の模索」金沢大学 コラボレーション推進室 福田晃先生講演	山本学類長ほか(附属学校等からの参加者を含め)120名以上		
令和4年度第4回FD研修会	3月9日	「共同教員養成課程の授業実践報告と提言」	山本学類長、林教学マネジメントセンター副センター長ほか		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	<p>令和4年度は、コロナウイルス感染拡大の影響から完全に脱することはなかったものの、多くの活動を通常の状態に戻して実施することができた。今年度は金沢大学と富山大学が共同教員養成課程をスタートさせる年となった。新たな課程の担当に向けてスムーズな移行ができるよう、学類FD研修会はその目的に特化したもの3回を含む計4回を実施した。内1回は富山大学の同課程担当教員にも参加を呼びかけ、新規に導入された遠隔授業システムで両大学を結んで行う初の研修会となった。両大学間で活発な議論が行われたことは大きな成果であった。全学類学生を対象とするアンケートもFD委員会の担当となり、5月と10月に計2回実施した。多くの学生の声を集めることで教育全体の質の向上へと繋げてゆく。研究授業の実施については実施予定時期にコロナウイルス感染拡大が重なる事態が想定されたことなどもあり、当初の計画を変更し、次年度に2回実施することとなった。そのような中でも、可能な活動をほぼ実施できたことから、「4:大いに評価できる」と自己評価する。</p>

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>「令和4年度授業評価アンケート」に関して、所属教員には学類会議等で調査実施に係る協力依頼、また結果の確認とその後の活用に係る依頼を行った。令和4年度からは富山大学との共同教員養成課程が開始された。担当授業が完成年度に向かうに従い増加するこれからの3年間は特に、より多くの関心を向けてもらえるように、委員会が結果の活用に向けて通知する機会をこれまで以上に増やす必要があると考えている。今年度の調査については、共同教員養成課程に所属する学生の回答率が他学類に比べて低いことが認められる。この新課程には1年次のみ在籍で、当調査の制度や回答方式にまだ不慣れであったことなど、やむを得ない事情があったことが考えられるが、これについては通知をさらに徹底することにより改善が期待できる。また令和5年度のアンケート実施について、調査対象授業科目を担当する教員には、メールによる実施協力依頼がすでになされて</p>
---

いるが、学類会議などにおいても関心を継続的に喚起するなどして今後の回答率が向上するように働き掛ける。

学校教育学類は所属学生全員に対して、『教職に就くことについての意識調査』を一年に二回実施している。この調査を通じて学生たちの教職に対する意識を教員が理解し、授業や日々の学生指導の質の向上に活用することが目的に含まれている。同調査では授業や学生生活における意見なども自由に記述してもらいが、それらは個人情報に十分な配慮を施した後に教員に共有され、学生からの率直な声を得る重要な資料となっている。調査結果は教員の意識向上、また研修会のテーマの参考とされるなど、これまでも積極的に活用されてきている。また調査に協力してくれる学生にも、これを定期的に自らの将来への意思を確認する機会としてもらい、学修やその他の活動をより充実したものとする契機とできるように指導していく。

3月に卒業者のみを対象に行われたアンケートについては、高い回答率でより信頼性のある結果が得られたと考える。学修の達成度を問うそれぞれの項目について「十分に達成している」の数値と「ある程度達成している」を合わせると80%の回答を得られた。また、学類での学生生活に対する満足度については53%であった「十分に満足」の回答と「やや満足」の数値を合わせると90%以上となり、大きな問題の無い数値が得られていると考えられるが、「十分に満足」の数値がより高くなるよう、結果を学類会議で共有し、FD研修活動の指針作成の重要な参考資料とするなどし、切な方策を実施する。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地域創造学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	これまで学類においては十分行われていなかった授業参観について、システムを構築し、全教員参加のもと進めることとした。システムに改善の余地はあるが、授業参観による授業改善の道を切り開くことができた。また、学類必修科目「地域創造学」のテキストを作成するために研究会を開催し、各教員の研究・教育実践の紹介を進めている。シラバスの記載のチェックは昨年度及び今年度と行い、ほぼ必要項目は記載が徹底している。成績評価方法の検証が十分に行われていないため、次年度の課題となる。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		学類再編にともない、カリキュラムも大幅に変わったので、授業評価アンケート等の分析に基づいて、これらについての検証を行う。授業参観と絡めて、授業改善のためのFD研修会を実施する。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
地域創造学類FD研修会	9月から毎月1回 第4木曜日	学類教員の教育・研究実践報告	地域創造学類長・FD委員長ほか、平均9名(専任教員の50%)	録画し、動画を学類教員および学生に公開	

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	教務・学生生活委員会と合同実施のシラバス点検、全教員参加の授業参観・授業評価、卒業生アンケート・授業評価アンケートの公表、成績評価分布の共有など、FD活動の主幹となる部分について滞りなく実施した。また、9月以降毎月1名の教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施し、教育研究の質の向上を図るとともに、研修会の動画を学生にも公開し学生の学びに役立てている。卒業生アンケートの回収率が低い点が課題であるが、大いに評価できるFD活動であったといえる。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和4年度の授業評価アンケートからは、予習・復習時間が少ないことが課題として挙げた。令和5年度からはシラバスに予習・復習のための教材や学修時間の記載を義務付けたので、この点について検証を行うとともに、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について検討を行う。
---

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年多くの課題が析出されながら、本年度もコロナ対応を最優先に学類運営を行わなければならなかったことから、析出された課題に対して必要な取り組みはなされたものの、十分ではなかったと反省される。このため自己評価を「概ね評価できる」にとどめざるを得なかった。ここまででも指摘してきたように、本年においても昨年析出された課題についてFD研修会等の実施を通じ、より深い考察が加えられたことは評価されるべき点であると考え。こうした成果を踏まえ、来年度に向けて学類改革のより広い視野を踏まえつつ、学類の教育内容のさらなる有機化を検討していきたい。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 教員の授業参観の制度化(ないしはそれに代わる他の教員の教育内容な教育手法の相互認知を通じた連携体制の強化)については、本年度の研修会等における検討によりその実現の第一歩が記された。次年度は学類システム改革と連動させつつ、こうした試みをより具体的な次元で実践することが必要となろう。また上に触れた各学年末のゼミ学習の「学類発表会」を「英語で学ぶ」という課題を含む、AL活動の濃密化の仕掛けとしてより具体的に設計していくことも求められる。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバス標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している <input checked="" type="checkbox"/> その他( 授業参観の実質化に向けは学類会議・FD研修会等において協議 )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
2022年度第1回国際学類FD研修会	9月29日	教職課程履修指導のポイントについて(学域教職WG座長 古市大輔教授)	13名	学域FDとの合同企画	
2022年度第2回国際学類FD研修会	2月17日	「国際連携教育としてのCOIL/VE型授業の事例紹介」	11名	学域FDとの合同企画	
2022年度第3回国際学類FD研修会	3月10日	初学者ゼミⅡ(プレゼン・ディベート論)の授業整備について	11名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	<p>本学なにかんずくその国際化を先導すべき役割を期待される国際学類のFD活動において、-ポスト・コロナ期における授業改善の一環として、Zoomやskype等を利用した遠隔技術の活用なにかんずく、COIL型授業の設計導入が強く提唱されるところであるが、本学類では先駆的に中野涼子教員を中心にシンガポール国立大学とのCOIL型授業が実践され、良い成果を上げている。こうした成果をさらに敷衍させるため、COIL型授業の導入事例を主題に、人間社会学域との合同企画による第2回FD研修会が企画・実施され、来年度以降のCOIL型授業の更なる拡大の地盤固めができたと判断される。</p>

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

こうした課題についても来年度のFD研修会等において随時話題に取り上げ、検討を加えていきたい。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 数物科学類・数物科学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	前年に比べ対面授業の率が増えたとはいえ、オンライン授業を行わざるを得ない状況が続く中、FDを通して、遠隔と対面に共用で共用できる教材開発がおこなわれ、講義の質の改善が見られた。ALAIは申請がなかったが制度の活用を進めていきたい。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 授業評価アンケートや卒業・修了者アンケートの結果から、学類・専攻の重要な基礎的科目の理解度に対する自己評価の改善が必要と考えられる。それらの科目に対するTA・ALAIの採用計画策定に取り入れるとともに、学生の基礎力向上のための教育方法の検討を行う。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
実施なし					

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	ほぼコロナ対応はなくなり対面授業の率が増えたとはいえ、Q4はオンライン授業を行わざるを得ない状況が頻発した。FDを通して、遠隔と対面に共用で共用できる教材および、自習用教材の開発が行われ、講義の質の改善が見られた。ALAの申請はなかったが制度の活用を進めていきたい。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

R3年度は卒業・修了者に対するアンケートの回答者数が揃わなかったが、R4年度はアンケート実施数を改善する予定であり、それに基づいて、結果の周知を行い、カリキュラムの改善につなげていきたい。



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 物質化学類・物質化学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	物質化学類ではFD研修会において、教員による自身の授業への取組みの紹介を継続的に行っている。講義形態の変更についても各種意見交換の機会を積極的に作ることで、状況に応じた教育方法改善に向けて十分な努力を行うことができた。あわせて、月例会議における授業評価法や改善策に関する話し合いを継続することで、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んできた。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		授業評価アンケート結果について、理工学域Webサイトにて公表している。授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成および保管を義務付けている。これらの内容をもとに、学類内において毎年FD研修会を開催し、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について継続的に議論している。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

### ○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(教務委員と連携し評価基準の明確化、および適正な評価の付与を周知している。)

### ○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第21回 FD研修会	9月13日	有機化学を行っている教員の実践報告とコロナ禍における研究室指導に関する情報共有	物質化学類長、他15名	応用化学コース	

### ○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	今年度はこれまで実現できなかった教員相互による必修授業の参観を開催した。参観後に意見交換を行い、優れた点、問題点を共有するなど、状況に応じた教育方法改善に向けて議論した。また、月例会議において授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。FD研修会を一部実施し、卒業生のアンケートと指導教員のアンケート結果から、授業の改善・教育効果の向上を図った。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

卒業論文をまとめる際の積極的努力や独自問題解決の自信において、卒業生の意識が向上していたが、実践活動の有益性において高い水準でありつつも、若干の低下が見られたことから、研究計画の重要性及び課題に対する理解度向上を狙い、教員間でのディスカッションの場を研修会の中で儲ける。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 機械工学類・機械科学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度に引き続きオンライン講義を実施することになったが、これまでに実施してきたオンライン講義対策が機能しており、組織的に各教員の教育能力や教育技術が向上できていると考えられる。また、これからの新しい教育展開を3学類FD研修会を通じて考える機会を提供でき、従来の延長上にはない教育方法の改善が期待できる。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 機械工学類(機械科学専攻)と理工学域(自然科学研究科)の授業評価アンケート結果の比較を行い、機械の担当講義の良い点、悪い点を把握し組織的に更なる改善を図っていく。また、新カリキュラムの卒業生アンケートの初めての結果を得たので、今後のカリキュラムの修正に活かしていく。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
理工3学類合同FD研修会	3月6日	留学生の研究室受け入れに伴うトラブル事例やその対処方法および留学生の保健管理センター利用状況の報告	自然研研究科長、機械工学類類長、FD委員ほか57名		○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	昨年度の授業評価アンケートの集計結果及びその分析結果を教員間で共有した。また、新方式の授業評価アンケートの問題点について、学類会議で意見を募り、FD委員会へ報告した。さらに、留学生の受け入れに伴う諸問題の事例とその対策に関して理工3学類合同FD研修会を開催し、教員の問題対処能力の向上を図った。この研修会に先立って、留学生受け入れに伴う諸問題に関するアンケートを理工3学類の教員に対して実施した。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートのマイナスの評価内容について、機械工学類の教員間で共有し、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ授業の改善を働きかける。
--

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 フロンティア工学類・フロンティア工学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	今年度、フロンティア工学類の第一期生が卒業し、学類のカリキュラムが一巡した。準備期間が非常に短く、内容を十分に詰められないままの新学期のスタートであった上に、コロナ禍に見舞われたにも関わらず、現場の教員の奮闘により、なんとか卒業を送り出すことができた。これまでに明らかとなった問題点を踏まえて、カリキュラムの修正への検討も開始しており、新専攻の立ち上げと合わせて、よりよい学類を目指したFD活動が継続的に行われている。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		今年度カリキュラムが一巡して、いくつかの課題が見られており、カリキュラムの修正を含めて検討が始まっている。そのための参考資料として今後本格的に活用する予定である。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
2022 年度理工3学類合同 FD 研修会	3月6日	1.留学生の経験と受入れ研究室の経験、双方をより良いものにするために 2.保健管理センターにおける留学生対応について	57名		○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	フロンティア工学専攻の1年目にあたり問題ないスタートをきれた。自由度の高い特色あるカリキュラムで、異分野の基礎を学ぶとともに高い専門性をもつ科目を学修できる。また、フロンティア工学類のカリキュラムの課題として、3学類内の共通科目について、各学類での重点項目が異なるため、再編し運用の見直しを行った。シラバス等の記入内容について引き続き周知・注意喚起するとともに、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

アンケート結果を踏まえ、引き続きフロンティア工学類のカリキュラムを見直すとともに、フロンティア工学専攻のカリキュラムについても分析し改善を進める。
---

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 電子情報通信学類・電子情報通信学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートなどFDに関わる情報を共有し、意見交換できるよう、LMS上にサイトを立ち上げた。フレックス授業やAL授業に向けた研修会を2回行った。また、授業評価アンケートの結果を基に、各教員が各自の目標を設定し、その結果を翌年評価するシステムをLMS上に構築し、初年度の実施を行い、目標としたものは達成できた。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p>令和4年度に向けた改善計画</p> <p>今年度は授業評価及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を共有できるよう、LMS上にサイトを立ち上げ、FDに関わる情報を共有し意見交換できるようにした。更に、各教員が各自の目標を授業評価アンケートの結果を基に設定し、その結果を翌年評価するシステムをLMS上に構築し運用を開始した。</p> <p>来年度も引き続き理工学域共通の授業アンケートを活用して、各自の目標に従って授業改善を行うことが求めてゆく。LMSを活用し組織的にその活用を推進する。</p>

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
理工3学類FD研修会	3月6日	留学生教育	3学類の学類長、FD委員、ほか51名	機械工学類、フロンティア工学類と合同開催	

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。授業科目の英語化について点検した。教員相互の授業参観としてモデル授業について実施した。成績評価基準の記載を点検し、成績分布を調査し、問題ないことを確認し、学類で共有した。理工3学類合同のFD研修会を実施した。教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。よって本年度のFD活動は概ね評価できる。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

前年度に構築したLMS上のシステムを今年度も活用し、各教員が授業評価アンケートの結果を評価し、次の目標を設定し、授業改善を行った。この授業改善に関する組織的な取り組みを来年度も継続する。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	コロナ禍におけるオンライン授業(含むハイフレックス型)におけるライブ配信ツールの利用難点や必要な遠隔配信関連設備に関するアンケートを実施し、関連部局と情報共有を諮り、その一部はサポートページにおけるFAQの充実にも寄与したことは評価できる。学類FDシンポジウムにおいては学類・専攻のカリキュラム全体および各段階における学習到達目標について構成員との意識共有が図れた。総じて、概ね評価できるFD活動であった。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和4年度に向けた改善計画</p> カリキュラム改善の取り組みとして、昨年度まで、カリキュラム再編WGにて、新学類一巡目のカリキュラムについての検証、および新専攻のカリキュラムについて議論してきた。今年度からは、学類、専攻ともに改善された新しいカリキュラムがスタートしたことから、今後、学類・専攻内にて検証を行っていく予定である。 また、授業方法改善の取り組みとして、学類・専攻内にてFDを開催し、教育方法改善のための情報共有と意見交換を行う計画である。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
地球社会基盤学類 FDシンポジウム	10月31日	授業にDXを取り入れている教員からの話題提供 学類内の優秀教員による講演 JABEE関連の情報共有	学類長、専攻長、FD委員ほか22名		
教員向けショートレクチャー	6月3日	Dr. Noboru Yonemitsuによるカナダ、ブリティッシュコロンビア大学(UBC)における土木工学の研究教育環境とその取り組みについて意見交換を行った	FD委員ほか6名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	コロナ禍におけるオンライン授業が増えるなかで授業の質を落とすことなく、DX技術などの新技術を活用した新しい授業方法について検討するため、学類FDシンポジウムを開催し、DX技術を活用した授業を行っている教員による話題提供から授業改善に役立つ授業方法の共有を行った。また、本学類内では、これまで卒業生によるアンケートから優秀教員の選出を行っており、その優秀教員の授業方法について話題提供および意見交換することでそれぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。 以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートの結果をみると、回答率が悪く、全体の意見を網羅したものではないが、環境都市コース以外の地球惑星科学コース、土木防災コースは、「あまり達成していない」、「全く達成していない」と回答した学生はいない。学類内において、独自のアンケートを行っており、そちらの結果と比較しながら、授業改善に活かしたい。また、学類内アンケートにより選出された優秀教員に授業方法を講演頂き、そのテクニックを情報共有しており、それらの活動を通して今後も教育能力の底上げをしていきたい。
---



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 生命理工学類・生命理工学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケートの回答率の向上に努めた結果、かなり改善した。毎月開催の学類会議において、教育方法の改善について話し合う時間を設け、様々な問題点について話し合った。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 アンケート結果と内容を学類会議等で検討し、コース別の次年度の改善についての方針を決めた。特に回収率の向上やアンケート項目の見直し、アンケート情報の共有、また授業内容で注意すべき時期などに改善点があることが分析から示唆されたため、これらの点についての改善に取り組んでいくこととした。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

**○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況**

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

**○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)**

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
実施なし					

**○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評**

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	各教員にシラバスの内容を確認の上、特に授業評価アンケートの回答率と評価の点検を求めた。回答率が昨年より低い傾向であったため学生に周知する必要があると考えられ、改善案についても意見を求めた。さらに成績評価においては、評価基準や成績分布について問題がないか確認を求めた。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートについては、各教員にアンケート結果の確認を周知、それに基づいた授業内容の改善を求めた。卒業・修了者アンケートについては、学類会議にて大まかな結果報告を行い、意見聴取を行った。また授業評価アンケートと同様に回答率が低い傾向にあったため、通知の方法を改善することとした。
--

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大下においても、昨年度の経験をもとに、医学系FD研修会を定期的実施することができた。</li> <li>・医学系FD研修会のオンデマンド配信を開始することで、より多くの教員がFDの内容をいつでも閲覧できる仕組みを構築した。</li> <li>・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。</li> <li>・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多数の担当教員への説明が効果的に行われた。</li> <li>・カリキュラム評価委員会を3回開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。今年度よりカリキュラム評価委員会に学生が参画している。</li> <li>・昨年度に引き続き、1-6年次に対してフォーカス・グループ・インタビューを実施し、その回答をまとめ、カリキュラム等の改善に結びつけていく。</li> <li>・JACMEによる医学教育分野別認証を受審し、今後の医学類教育の改善のための体制が構築されてきた。</li> </ul>
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p style="text-align: center;">令和4年度に向けた改善計画</p> カリキュラム委員会及び教育委員会を中心に、教育カリキュラムの改善に取り組む。FD委員会委員に学生支援委員会委員、基礎系教員、臨床系WG委員、サブスペシャリティローテーション委員を参画させ、医学系FD研修会の内容の充実を図る。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )
-----------------------	--

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業参観を計画していない。教員相互の授業参観は、今後計画する予定である。)

#### ○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(未実施。医学IR室を中心に今後検証を行う予定である。)

#### ○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回医学系FD研修会	4月11日	金沢大学医学類の医学教育	FD委員 含む53名		
第2回医学系FD研修会	5月9日	明日からできるアクティブ・ラーニング	FD委員 含む55名		
第3回医学系FD研修会	6月13日	ウィズコロナでの講義	FD委員 含む35名		
第4回医学系FD研修会	7月11日	ウィズコロナでの臨床実習	FD委員 含む41名		
医学系FD研修会・特別企画	7月27日	授業をやめ、医療現場を経験すれば、学生は自ら勉強する	FD委員 含む51名		
第5回医学系FD研修会	9月12日	教職協働	FD委員 含む28名		
第6回医学系FD研修会	10月17日	医学教育におけるDXの推進	FD委員 含む28名		
第7回医学系FD研修会	11月14日	学生の評価	FD委員 含む36名		
第8回医学系FD研修会	12月12日	シラバスの作成方法	FD委員 含む26名		
第9回医学系FD研修会	1月16日	医薬保健学域における授業英語化について	FD委員 含む45名		○
第10回医学系FD研修会	2月1日	患者安全教育と患者安全のための教育	FD委員 含む17名		
第11回医学系FD研修会	2月13日	学生支援 精神科の立場から	FD委員 含む55名		
第12回医学系FD研修会	3月13日	医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要	FD委員 含む32名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年10月1日に医学教育分野評価基準に適合しているとの認証を受けた。日本医学教育評価機構(JACME)から評価された評価報告書を踏まえて、今後の改善に向けて取り組んでいる。</li> <li>・医学類FD委員会委員に学生支援委員会委員、基礎系教員、臨床系WG委員が新たに参画し、内容の一層の充実に繋がった。新型コロナウイルス感染症の拡大下においても、医学系FD研修会を月1回程度オンラインで開催し、年間の参加者数は過去最多となった。医学系FD研修会のオンデマンド配信は継続し、より多くの教員がFDの内容をいつでも閲覧できる仕組みを構築している。また、年2回未満の参加者に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を課した。</li> <li>・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。</li> <li>・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。</li> <li>・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。昨年度より学生が委員会に参画している。</li> </ul>

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

カリキュラム委員会及び教育委員会を中心に、教育カリキュラムの改善に取り組む。医療人材教育研究センターの設立に伴い、医薬保健学域でのHD研修会の実施を予定している。



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。薬学系では毎年、全教員を対象とする薬学系FD研修会を開催するとともに、新任教員を対象とした研修会を独自に開催することで、教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を行っている。本年度も12月にFD研修会を開催し、公務欠席者を除けば、100%の出席率であった。本年度のFD研修会においては、「ポストコロナ・ウィズコロナの学生のメンタルケア」をテーマに、講演と教員間での意見交換を行った。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 令和3年度から薬学・創薬科学類が改組し、薬学類の規模の拡大、医薬科学類の新設に伴い、前年度に引き続き、専門知識と課題探求能力、さらに国際感覚と倫理観を有する学生を育成する。令和4年度もFD研修会を継続実施し、授業アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和4年度薬学系新任教員 教務 関連研修会	5月25日	教務全般の説明(カリキュラム、履修、成績判定、 アカンサスポータル運用、授業アンケート、アド バイザー制度)	薬学学類長、 FD委員長、 他5名	国際基幹教育院の 協力を得た。	○
令和4年度 薬学系(学類・大学院 研究教育)FD 研修会	12月11日	研修テーマ 「予習復習用動画教材の作成とLMSへの掲載方 法」:学術メディア創成センター 森 祥寛先生講 演、 「ハラスメントの防止 - 行為者にならないために -」:人間社会研究域 学校教育系・総合相談室統 括 吉川 一義先生講演	薬学教員 49名	全教員に参加義務 を課している。	○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。薬学系では毎年、全教員を対象とする薬学系FD研修会を開催するとともに、新任教員を対象とした研修会を独自に開催することで、教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を行っている。本年度も12月にFD研修会を開催し、公務欠席者を除けば、100%の出席率であった。本年度のFD研修会においては、「予習復習用動画教材の作成とLMSへの掲載方法」、「ハラスメントの防止 - 行為者にならないために -」をテーマに講演いただき、教員の能力及び資質向上となった。

【令和4年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和5年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。
---

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬科学類

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの作成や授業評価アンケートの分析など、概ねFDの主幹部については実施できていたが、シラバスの点検・確認・周知体制や、FD活動といった組織的な取り組みについては、初年度ということもあり準備不足であり、今後の課題であるとする。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 既にアンケート結果の共有や分析、フィードバックについては学類会議で実施しているところであり、学類会議内あるいは教務・学生生活委員会内に仕組みを導入する形で制度を定着させる。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(複数の教員が担当する科目において、オンライン講義を相互に視聴できるようにした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
各教員が所属する系で開催されたFD研修会に参加した。 学類長ほか4名は薬学系の研修会(1回)へ、副学類長ほか4名は医学系の研修会(13回のうち2回以上)へ、FD担当委員は保健学系の研修会(3回)へ参加した。					

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。一方、組織だったFD活動(FD研修会など)については今後検討する。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケート内容のうち、講義に関する提案(自由記載含む)が含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じて担当教員に照会し、もっともな提案については改善を促すなど、講義のあり方に実際に反映されるように取り組む。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 保健学類・保健学専攻

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	今年度の保健学類FD研修会では、「自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケア」と「ハラスメント防止」に関わる研修会を実施し、全教職員にそれらの対応等を周知した。また講義等の取り組みの改善においては、昨年と同様に、アクティブ・ラーニングを含めたオンラインによる高大接続プログラム・講義を継続し、5専攻横断型の講義として充実度がより深まったものと考えられる。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 回答率の改善においては、今後もクラス担任や指導教員を通して学生に周知していきたい。また教育方法の改善等においては、アフターコロナの講義を見据えて従来の対面講義に加え、オンライン講義を積極的に取り入れたブレンド型講義に関する研修会等を実施して、今後の授業・カリキュラム等の改善に努めていきたい。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和4年度第1回保健学系FD研修会	10月5日	現在の大学生の特徴から見えてくること ～学習意欲向上に導く支援を目指して～	保健学類長, FD委員長, ほか63名		
令和4年度第2回保健学系FD研修会	11月2日	こころの健康とゲートキーパーについて	保健学類長, FD委員長, ほか40名		
令和4年度第3回保健学系FD研修会	2月22日	医学教育におけるハラスメント防止について	保健学類長, FD委員長, ほか45名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	今年度は保健学系独自でFD研修会を3回開催し、「学習意欲向上に導く支援」「こころの健康とゲートキーパー」「ハラスメント防止」に関わる内容を取り上げた。多くの教職員が参加し、事後に実施したアンケートの結果も良好であった。医学系FD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことによって、医学教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。また、授業評価アンケートについては、実施期間等を学生にアナウンスするだけでなく、クラス担任や指導教員からも学生に周知を行うなど、回答率向上のための工夫を講じるとともに、アンケート結果の授業担当教員へのフィードバックを行った。さらに、授業の改善や教育の充実を目的に、学類2、3年生を対象とした投票結果に基づき、優秀教育教員の選出を行った。全体を通して、予定していた活動を全て実施することができたため、大いに評価できると判断した。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

アンケート結果の授業担当教員へのフィードバックを引き続き行うとともに、集計結果から判明した改善すべき点については、改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、各教員がそれぞれの担当する授業で行っている優れた取り組みのノウハウを共有する機会を設けることや、オンライン講義を積極的に取り入れたブレンド型講義に関する研修会等を実施して、今後の授業の改善に努めていきたい。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人間社会環境研究科

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度に教員に対して実施した遠隔授業と研究指導についてのアンケート、修了者アンケート、授業評価アンケートに基づき明確になった問題点に対応した施策・FD研修会を行うことができた。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 授業評価アンケート及び修了者アンケートの結果について情報共有し、改善について検討するとともに、これらのデータを参考にして新設の大学院GS科目等の内容や実施方法の検討を行う。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (コロナ禍の感染対策からも今年度は授業参観を行っていない。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大学院授科目は5名以下の科目が多く、分布の偏りについて検証できるだけのデータを得られていないことから現状では成績評価分布について調査を計画していない。)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
令和4年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	7月4日	博士論文研究基礎力審査(Qualifying Examination:QE)について米国の大学院制度と本学の制度を比較し報告	小島研究科長ほか30名		○
令和4年度第2回人間社会環境研究科FDセミナー	8月24日	大学院修了後の進路について人材派遣会社担当者からの見解報告と教員との意見交換	小島研究科長ほか30名	オンラインで実施	
令和4年度第3回合同FD研修会(学域との合同研究会)	3月8日	人間社会学域全学類学生及び大学院在生に対して実施した大学院進学意識調査の結果報告	小島研究科長ほか40名(オンライン参加を含む)	大学院合同セミナーの一部として法学研究科法学・政治学専攻と共催。	

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	令和4年度はFD研修会の回数を増やし、QEの新制度についての指導方法や、大学院修了後の進路に係る学生指導に役立つ情報を共有し教員間で議論した。また、大学院進学に関する学生意識調査を人間社会学域の全学類の学生と、人間社会環境研究科博士前期課程及び法学研究科法学・政治学専攻の在学者に対し令和4年12月に実施した。意識調査アンケートの結果について、FD研修会を開催し情報共有した。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

各種アンケートの結果について情報共有し、改善について検討するとともに、これらを参考に新設の大学院GS科目等の内容や実施方法の検討を行う。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬保健学総合研究科(修士課程・医学博士課程)

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際基幹教育院との共催により、アクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的を実施することができた(医学類との合同開催) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会は遠隔会議システムを用いた開催とした。授業評価アンケートについては、Webによる効率的なアンケートを主体実施とすることを目指す。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程においては、課題が2つ明らかとなった。①複数指導体制について、3分の1の学生が十分に認識していない結果であった。今後は本人に周知するなど、指導体制を充実させることを検討する。②単位の修得方法、時期が分かりにくかったという意見が複数みられた。そのため、履修スケジュールを新たに手引きに記載することとした。さらに、履修案内を密に行う方法を検討する。 修士課程においては、在学期間中すべてコロナ禍の影響を受けた学生が修了した。在学期間中はWebによる授業がメインとなったため、ポストコロナに向けて、対面授業や交流を促進することとした。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(一部のオンデマンド授業(オムニバス形式)では、科目担当教員間での相互の授業内容確認を可能とした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
医学系FD研修会	毎月1回第2月曜日(4月、8月を除く)	アクティブ・ラーニング(特に授業のオンライン化に伴う手法)、カリキュラムとポリシー、シラバス、学生支援(メンタルヘルス、留学生対応)等	20名～50名		○
石川県がん診療連携拠点病院研修会	7月21日、11月24日、3月23日(計3回)	北信がんプロが関与して開催されている、診療に関する研修会で、臨床に関わる医療従事者等が受講した。	30名～60名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	国際基幹教育院との共催により、アクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的に行うことができた(医学類との合同開催)。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会は遠隔会議システムを用いた開催とした。授業評価アンケートについては、Webによる効率的なアンケートを主体実施とすることを旨とする。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

<p>修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。医学博士課程においては、課題が2つ明らかとなった。①複数指導体制について、学生に注意喚起などを行ったものの、十分に認識していない学生が約半数存在した。指導教員からの啓発、学生達への通知の強化を今後検討する。②履修スケジュールを新たに手引きに記載することとしたが、単位の修得方法、時期を理解しにくいという学生意見が残存した。さらに、履修案内を密に行う方法を検討する。修士課程においては、在学期間中すべてコロナ禍の影響を受けた学生が修了した。既に対面授業がメインとなりつつあるが、ポストコロナに向けて、対面授業や交流を促進する。</p>
---



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先進予防医学研究科

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	引き続き、3大学共用のVOD教材の英語化を進め、すべての英語化を達成することができた。また、先進予防医学研究科3大学合同FD講演会において、医療情報データベースを用いた臨床疫学研究と授業への対応について教員間で情報を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。また、3大学共同専攻の教育活動等の改善を図るための自己点検・評価ならびに外部評価を実施した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		<p>令和4年度に向けた改善計画</p> <p>千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻として実施した自己点検・評価ならびに外部評価結果に基づき、授業アンケートおよび修了者に対するアンケートを教育活動改善に活用するための3大学共同のシステム作りに取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するために、今後も3大学合同FD講習会を継続実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。</p>

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(一部のオンデマンド授業(オムニバス形式)では、科目担当教員間での相互の授業内容確認を可能とした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
金沢大学・千葉大学・金沢大学 合同 先進予防医学共同専攻 FD講演会	1月31日	共同専攻合同のFD講演会を令和4年度は本学主催で実施。「次世代医療基盤法に基づく医療情報の収集と利活用の現状、課題及び展望」のテーマで、Webにより開催した。	3大学の担当教員、学生 71名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	シラバス点検により、主に英語化率に関する記載内容の改善を図った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、医療情報の収集と利活用に関する情報等を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。また、令和3年度に実施した自己点検・評価ならびに外部評価を参考にしつつ、3大学共同専攻の教育活動等の改善を図ることができた。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

3大学先進予防医学共同専攻として実施した自己点検・評価ならびに外部評価結果に基づき、授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートを教育活動改善に活用するための、3大学共同のシステム作りに引き続き取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するため、今後も3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 新学術創成研究科

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	教育内容及び実施方法について、教員間で積極的に議論・検討を行う機会を設けることができた。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		アンケート結果を元に専攻毎の教務・学生生活委員会において次回FD研修会のトピックスを精査の上、研修会を開催する予定。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(融合科学共同専攻において、「異分野『超』体験セッションⅠ(博士前期課程)・Ⅱ(博士後期課程)」の授業を、専任教員に遠隔配信(web EX)にて公開した。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
融合科学共同専攻FD研修会	3月13日	本学とJAIST間で相互の研究内容について理解を深めるとともに、異分野融合を促進させる指導方法について検討する。	両大学専攻長 ほか18名		
ナノ生命科学専攻FD研修会	3月6日	留学生受け入れ時の留意点、保健管理センターにおける留学生の対応について直接の担当者からのレクチャーを受ける	専攻長、教務 委員長ほか 5名	理工3学類合同FD 研修会	○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	FD研修会により、教育内容及び実施方法について、教員間で積極的に検討を行う機会を設けることができた。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

各専攻事の教務・学生生活委員会等で、アンケート結果より課題を抽出し、次回FD研修会での実施内容を整理し、研修会を開催する予定。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学研究科(修士課程・専門職学位課程)

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	関係科目担当教員によるシラバスチェック、授業参観やそれに基づく意見交換会、FD研修会、他大学との合同FDなどを通じ、組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		【法務専攻】アンケート結果及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて共有し、FD研修会において検討する。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。(法学・政治学専攻) <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。(法学・政治学専攻) <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。(法務専攻) <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> その他(弁護士による授業参観も実施し、意見交換会において、実際に参観した弁護士からの意見を聴取している(法務専攻))

### ○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。(法務専攻) <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。(法務専攻) <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。(法務専攻) <input type="checkbox"/> その他( )

### ○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考	SGU
第1回FD研修会	6月14日	学生のITリテラシーと指導について議論	専攻担当 教員22名	法学類と合同で実施	○
大学院合同FD研修会	3月8日	大学院進学に関する意識調査の結果報告	稲角専攻長 ほか40名	人間社会環境研究科と 合同で実施	○
法学研究科・法学類合同FD研修会	12月20日	法学類新規開講「入門ロースクール」	34名 (研究科長、法学・ 政治学専攻長、法 務専攻長、法学類 長含む)	法学研究科と法学類の 合同開催	
【法務専攻】第1回意見交換会	7月19日	授業及び自習支援等の学修支援の状況、弁護士による自習支援の意義	教員11名 (専攻長含む)、弁 護士6名		
【法務専攻】第1回FD研修会	9月6日	金沢弁護士会支援委員会の学修支援、千葉大学からの教材提供、前期の授業	教員12名 (専攻長含む)		
【法務専攻】第2回意見交換会	1月20日	弁護士からの授業または授業参観をしての感想、学生の学修状況、論述能力の涵養	教員11名 (専攻長含む)、弁 護士7名		
【法務専攻】第2回FD研修会	3月14日	共通到達度確認試験の結果、新年度からの授業形態、定期試験問題など	教員11名 (専攻長含む)		

### ○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	・大学院進学に関する意識調査を学類学生と専攻所属の学生に対して実施し、その結果についてFD研修会において報告し議論した。大学院進学を希望する学生や専攻の在学者の今後の指導に活かせる情報が共有された(法学・政治学専攻)。 ・組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている(法務専攻)。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

・学生アンケートの結果と議論で共有された教員の所見や問題提起を参考として在学者の指導を行い、大学院説明会の内容に反映させることを検討する。(法学・政治学専攻) ・アンケート結果、及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、意見交換会の際に、弁護士からの意見も聴取する(法務専攻)。
--

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 教職実践研究科

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	年度当初より、テーマに沿ったFD計画を立て、それに沿ったFD活動を実施してきた。教員・大学院学生への公開授業を実施するとともに、活発な意見交換も展開した。将来構想委員会を立ち上げ、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発に取り組んだ。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		昨年度の授業評価アンケート等をもとにして、教職実践研究科におけるFD活動を年3回計画している(公開授業とそれをもとにした授業研究会(7~12月)、及び実践研究報告会における大学院学生の発表に関する検討会(1~2月))。また、将来構想委員会において、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発を行っていく予定である。

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回FD研修会	5月26日	金沢大学附属コラボレーション推進室長福田晃氏による講演『5校園の連続性を生かした未来教育』附属学校園将来構想(金沢モデル)アクションプラン	大谷研究科ほか8名		
第2回FD研修会	8月22日	学校教育学類・教職実践研究科・附属学校園研究推進委員会主催「夏の研究フォーラム」へ参加	大谷研究科ほか10名	学校教育学類、附属学校園と共催	
第3回FD研修会	1月18日	「学習デザイン研究Ⅱ」の研究授業及び整理会	大谷研究科ほか25名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目での学びがスタートすることを踏まえ、①教員・大学院学生への、「探究」に係る公開授業を実施し、活発な意見交換も展開した。②附属学校園との連携を深めるために夏の研究フォーラムに積極的に参加した。③金沢大学附属コラボレーション推進室長福田晃氏の講演から(金沢モデル)アクションプランについて学んだ。また、将来構想委員会において、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発に取り組んだ。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

教職実践研究科におけるFD活動を、公開授業を含む年3回計画している。令和5年度新設「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目に係る内容等についてFD会議を定期的開催し、研究・検証する。

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(GS教育部門)

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症問題によって授業実施方法が読めない不安な状況であった。そのような中、オンライン形式のFD研修会を年度内に2回実施し、さらに各科目で自主的なFDを平均3回実施しており、オンラインでありながら効果的なアクティブ・ラーニングを実現する、あるいは英語授業の効果を向上させるなど、授業改善にむけた効果的なFDが実施できていたと考えている。照会事項6に記載した通り、GS教育系は各科目の独自性が強いが、全科目で共有できるテーマを見出し、これからも実施していきたい。その期待も含めて自己評価は最上位の「4」ではなく「3」とした。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

### ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )



2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがいる場合は職名を記載してください。なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に關係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
令和4年度第1回 国際基幹教育院FD研修会	10月13日	障がいのある学生の受講にあたり、どのような対応が求められるのか、どこまでの配慮を必要があるのか等、支援を考える際に基本となる考え方の実践報告と意見交換を行った。	21名	GS教育系、外国語教育系から参加	
令和4年度第2回 国際基幹教育院FD研修会	12月15日	オンライン形式で「健康科学」を受講した経済学部(当時1年生)が統計を基盤とした医学研究に興味を抱き、GS教育系唐島准教授の指導の下で研究活動を開始した。その研究成果が翌年に査読を有する国際医学雑誌に掲載された事例について報告され、意見交換を行った。	26名	GS教育系、外国語教育系から参加	
令和4年度第3回 国際基幹教育院FD研修会	2月21日	厚生労働省は睡眠分野における国民の健康づくりのための取組として、「健康づくりのための睡眠指針2014」を策定している。教育者や研究管理責任者が最新の科学的な睡眠に対する知識を持つことは、質の高い教育力の持続や研究の実行力や完遂性を高めることに繋がる。米国スタンフォード大学医学部精神科教授・スタンフォード睡眠・生体リズム研究所所長である西野精治先生により、睡眠と健康に関連する研究成果が発表され、意見交換が行われた。	98名	融合学域、教学マネジメントセンター、保健管理センターと共催	

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症問題によって授業実施方法が不安定な状況であった中、FD研修会を年度内に3回実施した。各科目で自主的なFDを複数回実施しており、効果的なアクティブ・ラーニングを実現する、あるいは英語授業の効果を向上させるなど、授業改善にむけた効果的なFDが実施できていたと考えている。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、学類と比較すると科目の個別性・特殊性がより強いと言えるが、全科目で共有できるテーマを見出し、これからもFDを実施していきたい。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式 1

部局等名 国際基幹教育院(外国語教育部門)

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和3年度は外国語教育部門のすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部)において、充実したFD活動を行った。部門内の研究会を計画通りに対面あるいはオンラインで開催し、それに加えて学内の他部局・学類、学外・海外の教員・企業との研究交流・連携・事例共有も行った。部門共通のテーマは、本学における言語科目の授業改善や授業内容・方法の質的充実を図ることであった。言語ツールの進化に対応できる言語教育の在り方、標準テストの変化に対応できる標準教材の開発、対面とオンラインによるハイブリッド授業の課題及び改善点、オンライン海外教育プログラム研修の内容を取り上げ、研究会及び日本国内外の研究者による講演会、企業との検討会を複数開催し、コロナ時代における言語教育の在りようについて検討を重ねた。その中でも特筆すべき取り組みとして、まずEAP教育企画部が前年度同様、金沢大学の英語教育と専門教育を繋ぐ取り組みに力を入れ、SGU英語教育に大いに貢献したことが挙げられる。国際試験教育企画部においては、TOEIC標準テストの形式変化に対応できる標準教材の開発にむけて出版社と研究機関の連携の展望を複数の出版社と検討を重ねた。また、初習言語教育企画部においては他大学の遠隔授業実践例とオンライン海外教育プログラム研修の内容を把握し、さらなる今後の改善を図ることに努めた。外国語部門が対面による授業参観を本年度実施できたことは今後の外国語系全体の授業改善に大いに繋がることが期待される。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 —

【令和3年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )
-----------------------	---

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input checked="" type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input checked="" type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

### ○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりもループリククの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input checked="" type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

### ○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などいる場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第1回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部) EAPワークショップ	7月13日	EAP授業担当者による実践報告及び意見交換	系長ほか 17名		○
第2回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画) Introducing the NGSL Project: corpus-based wordlists and online resources for systematic development of L2 vocabulary	7月25日	コーパスに基づいた英語語彙学習に有効な語彙リストについて	系長 ほか21名		○
第3回・第4回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画) 英語語彙問題作成セミナー—TOEIC Part 5で学ぶ問題作成の視点と考え方—	9月7日 9月14日	・英語語彙問題の作成のポイント解説とワークショップ ・作成問題の講評ワークショップ	系長 ほか14名	2回セットで実施	○
第3回全学 FD 研修会 金沢大学 EMI 科目(英語による科目)の現状と今後の展望	9月28日	EAP授業担当者による実践報告講演及び質疑応答	教育担当 理事, 学長 補佐, 系長 ほか 97名	全学FD研修会 対面とリモートのハイブリッド開催	○
第5回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部) EAP Chat I	11月11日	EAP授業担当者による実践報告及び意見交換	系長ほか 11名		○
第4回金沢言語学フォーラム/初習言語(中国語)FD研修「中国語の時空間—いま、ここから見えるもの」	11月24日	本学名誉教授及び外部講師2名による中国語の直示体系に関する研究の講演	120名 (オンライン参加10名)	初習言語教育企画部企画, 人文共催	
外国語教育系FD活動 授業見学 (EAP教育企画部・国際試験教育企画部企画・初習言語教育企画部)	12月16日～12月22日	公開授業(家口美智子・菅野磨美・西村周浩・西村英希・Jana Klacanska・西嶋愉)	系長ほか 40名(6回)		

名称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
第6回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部) EAP Chat II	1月16日	EAP授業担当者による実践報告及び意見交換	系長ほか 11名		○
FD/SD 講演会 (外部講師を招いての講演会)	3月17日	「学術リテラシー教育としてのライティング授業とライティングセンターの連携」	系長ほか42名 (内オンライン参加23名)	未来創成環との共催 対面とリモートのハイブリッド開催	

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
4	<p>令和4年度は外国語教育部門のすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部)において、新規の取り組みを含む充実したFD活動を実施した。EAP教育企画部では例年実施しているEAPワークショップ(コロナ禍のためオンライン開催)に加え、新たなFD活動として「EAP Chat I 及び II」を実施した。更にはEAP教育企画部では「金沢大学EMI科目の現状と今後の展望」と題した第3回全学FD研修会を対面及びオンラインでハイブリッド開催し、多くの方に参加いただいた。また、報告内容の一部を冊子体およびPDF版として発行し、学内教員に配布できるようにした。</p> <p>学生に語彙力向上を促す目的で「金沢大学ボキャブラリーコンテスト2022」をはじめ開催するにあたり外国語教育系でWGを立ち上げ、企画運営にあたり、英語担当教員全員から語彙問題を募った。これに関連し次に挙げる2つのFD活動を実施した。国際試験教育企画部では、語彙力をつけさせる有効な教授方法の研究分野における第一人者の一人を他大学から外部講師として招き、対面形式でワークショップ形式の研修会を実施した。これに加えて、TOEIC関連で多数の著書がある外部講師を招き、「英語語彙問題作成セミナー —TOEIC Part 5 で学ぶ問題作成の視点と考え方—」と題したワークショップ型研修会をハイブリッド形式(外部講師はオンライン)で開催した。</p> <p>融合学域、教学マネジメントセンター、保健管理センターと共催で国際基幹教育院として、スタンフォード大学教授による「スタンフォードと睡眠医学—最高の睡眠で最幸の人生を—」と題したFD講演研修会を実現した。また、人文学類/人間社会研究域言語研究グループとの共催で講師2名を招き、第4回金沢言語学フォーラム/初習言語(中国語)FD研修「中国語の時空間—いま、ここから見えるもの」を実施した。更には未来創成環、附属図書館との共催で他大学所属の第一人者を招き、「学術リテラシー教育としてのライティング授業とライティングセンターの連携」と題したFD/SD講演会を開催し、講演会後には講師から科目開発研究への助言を得るとともに関係教員との意見交換会を実施した。</p> <p>初習言語・EAP・TOEIC準備科目の6科目で相互授業見学を実施し、延べ40名が参加した充実したものとなった。</p> <p>具体的授業実践の相互見学、新たな教育支援に関連した多様なFD活動の取り組みに加え、他部局・学類と連携した講演・研修会が複数実施されるなど活発なFD活動が展開された。</p>

【令和4年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学術メディア創成センター

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分については、メール等を用いて授業改善に役立てることができたこと、令和4年度に向けてセンター教員全員で講習ができたので、概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画 —

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
データサイエンス基礎研修会	3月23日	次年度(令和5年度)のデータサイエンス基礎の実施に向けた研修会	センター長 他8名		

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分については、メール等を用いて授業改善に役立てることができたことや、slack等を用いてお互いの授業を報告し情報共有と即時の授業改善に役立てられたこと、および令和5年度に向けてセンター教員全員で講習ができたので、概ね評価できる。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--



# 令和4年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際機構

参考資料:「令和3年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和4年度に向けた改善計画		
自己評価	令和3年度の自己評価	総評
令和3年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際機構の授業は主に留学生対象であるため、令和2年度に引き続き、授業の大半を遠隔で提供することとなった。それに伴い、FD活動も、従来のような形で十分行われたとは考えないが、状況に応じて創意工夫し、講師間でより頻繁に情報共有するなど、出来る形での活動を行った。また令和3年度は自己点検評価を行い、報告書を公刊した。
授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和4年度に向けた改善計画
		—

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和4年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

## ○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検 (教学マネジメント関連)	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> ALの記載状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> ALに関する記載を個別に依頼した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②授業科目の英語化の点検 (SGU関連)	<input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を周知した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力状況をチェックした。 <input checked="" type="checkbox"/> 英文での入力を個別に依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> 英語化率の入力状況をチェックした。 <input type="checkbox"/> その他( )

## ○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者個人に返却した。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目担当者間で共有した。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 課題のある科目に注意を行った。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも結果が改善した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	<input type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 <input type="checkbox"/> 結果を公表した。 <input type="checkbox"/> 具体的な改善につなげた。 <input type="checkbox"/> その他( )

2-2 下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 授業カタログを活用した。 <input type="checkbox"/> モデル授業について実施した。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名未満)。 <input type="checkbox"/> ローテーションで実施した(5名以上)。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての教員の授業を公開している。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(総合日本語プログラムの授業はすべて、担当者が互いに教材や授業の進め方などについての報告および問題点の指摘などを行えるよう、定期的なミーティングを行っている。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和4年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を( )書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 <input checked="" type="checkbox"/> シラバスへの記載状況を確認した。 <input type="checkbox"/> 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 <input type="checkbox"/> 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 <input type="checkbox"/> その他( )
②成績評価方法の検証	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価分布を調査した。 <input type="checkbox"/> 成績評価分布を学類内で共有した。 <input type="checkbox"/> 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 <input type="checkbox"/> 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 <input type="checkbox"/> その他( )

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和4年度の実施状況を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース等名を備考欄に記載してください。**参加者に学域・研究科長、学類・専攻長、FD活動組織関係者などがある場合は職名を記載してください。**なお、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業に関係する内容が含まれる場合は、○印を記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
国際機構FD強化週間	12月19日～23日	国際機構教員(非常勤講師含む)がお互いの授業を見学し意見交換を行った。	25名		
学生指導にかかるFD研修会	2月16日	前半:大学人として国際社会にどのようなマインドセットで対応していくべきかについての講演を聞いた。 後半:加速するAIの進化をどのように学生指導に取り入れるべきかについて、ChatGPTの使用を例にディスカッションを行った。	教務委員長、FD委員ほか5名	講師:金沢大学名誉教授 楠根重和	○

○照会事項5 令和4年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和4年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和4年度の自己評価	総評
3	国際機構には、留学生に充実した学修・生活指導を提供することに加え、既存の派遣・受け入れショートプログラムの運営と改善、並びに新規プログラムの開発が強く求められている。そのため令和4年度も、各担当分野の担当者同士が意見交換を重ね、創意工夫しながら活動を行った。具体的には、SNSの活用により、非常勤講師との情報共有を活性化したこと、また、今年度は、対面による授業相互見学を再開したことにより、FD活動を促進した。

【令和4年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和4年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和5年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

### 3 各部局等の BSD 活動

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	急速に進む教育DXをはじめとする諸課題等に関する多様な知識や取組事例を学ぶことで、教務系職員としての資質向上を図ることができた。ただ、昨年同様、コロナ禍のため、参加者同士の対面でのネットワーク構築が困難であったことが残念である。

【令和3年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 18回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和4年度第1回FD研修会	新任教員説明会<教育・学生編>	4月4日	2名	主催、全体57名
令和4年度第2回FD研修会	ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現	8月8日	9名	主催、全体131名
令和4年度第3回FD研修会	金沢大学EMI科目(英語による科目)の現状と今後の展望	9月28日	5名	主催、全体87名
令和4年度第4回FD研修会	FD活動報告書成果発表会	10月28日	4名	主催、全体61名
教学マネジメントセミナー2022	教学マネジメントのあるべき姿を考えよう! ~ 自律的学修者を育てるために~	12月22日	4名	主催、全体24名
北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員会	教育IR活用や大学院教育改革等を議題とした北陸地区国立大学4大学でのオンライン意見交換会に職員も出席した。	8月30日	4名	主催、全体10名
学生の自死防止のための研修会	ネットを介しゲートキーパーとなるために	12月23日	3名	
金沢大学数理・データサイエンス・AI教育 第1回シンポジウム	数理・データサイエンス・AIの知識が、いま社会で求められていることを知る	10月31日	4名	主催、全体131名 (学外者含む)
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第1回)	地域貢献活動としての「やまの保健室活動」	9月14日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第2回)	コロナ禍における金城美術のICTの活用事例の紹介	10月31日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第3回)	大学におけるセキュリティの実態、自治・自律とガバナンスをどう両立させるか	11月18日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第4回)	遠隔授業教材作成において留意すべき著作権の扱いについて	12月9日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第5回)	護教育・研究へのDXの導入ー石川県立看護大学での取り組みー	12月22日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第6回)	「男女共同参画」と「ルーブリック評価について」	1月18日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和4年度FD・SD研修会(第8回)	金沢大学 KUGS 特別入試の取り組み: 探究学習を題材とするレポートの評価を中心に	2月9日	1名	
中部大学第58回FD・SD講演会	なぜ今の若者はそこまで目立つことを恐れるのか? ~ キャンパス内で急増する「いい子症候群」の心理的特徴 ~	2月7日	1名	中部大学
数理・データサイエンス・AI教育SD研修会	数理・データサイエンス・AI教育の意義	3月10日	6名	主催、全体27名
学務部キャリア形成研修	大学の位置、事務の職責、キャリア観	2月21, 28日 3月8, 16日	3名	学務部長主催、 全体15名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	外部機関が主催する研修会に参加したほか、主催にて学務系職員対象に数理・データサイエンス・AI教育SD研修会を開催し、数理・データサイエンス・AI教育の意義や本学の文部科学省指定コンソーシアムの北信越ブロック代表校としての役割について理解を深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)



## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学生支援課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	アドバイス教員等による日頃の指導や、関係部署、関係教職員の協力に加え、自死防止のための研修会を遠隔対応でも行ったことにより、懸念のある学生への対応方法等に関する教職員の理解がさらに深まり、学生支援体制の強化につながった。令和4年度は、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【令和3年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
学生の自死防止のための研修会	ネットを介しゲートキーパーとなるために	12月23日	10名	学生自死防止専門委員会主催、全学FD委員会、KUGSサポートネットワーク本部会議・学生生活委員会共催、全体約100名
学務部キャリア形成研修	大学の位置、事務の職責、キャリア観	2月21、28日 3月8、16日	5名	学務部長主催、全体15名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

・保健管理センターや障がい学生支援室、就職相談窓口の有機的な連携に事務職員も貢献し、対応状況を共有することでBSDにつながっている。

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	教職員のニーズを反映したテーマでの講師による研修会を行い、懸念のある学生をはじめとする学生への対応に係る教職員の理解がさらに深まり、学生支援体制の強化につながった。また、平素から複数窓口の連携が必要な問題のある学生に関し、事務職員も積極的に関与することがOJTに結びついている。	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課新学術創成研究科係

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	カリキュラムの検討・改善の他、研究科の実状に沿った内容の研修会を開催することにより、より教育指導体制の改善に資する内容となった。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
ナノ生命科学専攻FD研修会	外国人留学生の受け入れ対応について	3月6日	係長・係員全5名	理工3学類合同FD研修会主催

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	外国人留学生の対応について、日常的に心がける点などを学んだ	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部入試課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定  
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	コロナ禍のため外部機関が主催する研修会は実施されなかったが、入学者選抜試験の事務担当者向けに打合せ会をオンデマンド形式で開催し、令和4年度入学者選抜業務全般について理解を深めた。また、特別選抜に係る説明会及び主体性評価実施説明会を昨年度から内容及び実施方法を見直し実施した。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和5年度入学者選抜試験判定資料の確認作業要領等に関する説明会	主体性評価実施に関する説明をオンデマンドで実施	1月19日～31日	6名	主催、全体99名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

コロナ禍になるまで対面で開催していた「令和5年度金沢大学入学者選抜試験事務担当者打合せ会」を、昨年度に引き続きオンデマンド形式で実施し、繁忙期においても入試担当者がいつでも繰り返し内容を確認することが可能となった。

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	コロナ禍のため外部機関が主催する研修会は実施されなかったが、入学者選抜試験の事務担当者向けに打合せ会をオンデマンド形式で開催し、令和5年度入学者選抜業務全般について理解を深めた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部基幹教育支援課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	「学生相談担当者研修会」は、「なんでも相談室」で学生からの相談を受ける教員や学生を対象に開催しているが、相談員となるメンバーが毎年変わるため継続した開催が必要と思われる。令和4年度も引き続き対象者に向けて実施する予定。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和4年度前期学生相談担当者研修会	なんでも相談室の基本方針、ハラスメント相談への対応、相談を受ける時の基本的な態度、共通教育のカリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	オンデマンド	5名	主催(全体参加者数25名程度)

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「学生相談担当者研修会」は、「なんでも相談室」で学生からの相談を受ける教員や学生を対象に開催しており、相談員となるメンバーが毎年変わるため、継続した開催が必要と思われる。	次年度も引き続き対象者に向けて実施する予定である。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 融合系事務部学生課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	オンライン会議の普及により、BSD研修会やFD研修会に職員が参加しやすい環境が整ってきており、融合学域の教育方法について理解を深める等、職員の知識修得・資質向上を図った。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 16回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
第1回融合学域FD研修会	「現在の米国(シリコンバレー)の状況報告/教育Dx」	7月25日	3名	全体23名
第2回融合学域FD研修会	融合学域でのFDについてのディスカッション	9月22日	4名	全体19名
第3回融合学域FD研修会	融合学域でのFDについてのディスカッション	10月20日	2名	全体14名
第4回融合学域FD研修会	秋田先生からのサバティカル報告(中国・深圳)	11月24日	4名	全体14名
第5回融合学域FD研修会	VBLアントレプレナーコンテスト受賞報告	12月22日	3名	全体20名
第6回融合学域FD研修会	アカデミックスキル、プレゼン・ディベート論及び学術リテラシーの定義について	1月26日	6名	全体27名
第7回融合学域FD研修会	学生募集・広報等のための融合学域3学類の特長・強みについて	3月23日	4名	全体22名
先導学類懇談会	学生の留学プログラム等、先導学類学生の教学に関する意見交換	12月15日	5名	全体26名
令和4年度第1回観光デザイン学類ワークショップ	令和5年度開講科目の実施について	1月25日	5名	全体20名
令和4年度第2回観光デザイン学類ワークショップ	令和5年度開講科目の実施について	3月24日	5名	全体20名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 非侵襲イメージング:体の中を撮し出す	7月14日	5名	全体32名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 ある社会課題の解決に向けて	9月8日	5名	全体33名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 バイオマス由来のものづくり ～透明な木～	10月13日	5名	全体28名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 相互作用と場をデザインするー他者の見方・考え方・感じ方を起点に	11月10日	5名	全体33名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 多様な生命データを扱った経験から	12月8日	5名	全体35名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介 社会の合理化と文理融合	2月9日	5名	全体34名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--



○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は 「ほとんど評価できない」の場合は、必 ず記載してください。
3	融合学域FD研修会, 融合学域教員研究シーズ紹介等に参加し, 融合学域の教育方法及び教員の研究内容について理解を深める等, 職員の知識修得・資質向上を図った。	引き続き, 融合学域FD研修会, 融合学域教員研究シーズ紹介等に参加する。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 人間社会系事務部学生課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	教員免許取得という学生の進路選択の幅を広げる意味でキャリア形成にもつながる教職課程制度についての勉強会を行い、学生課内の多くの職員の参加があったことは評価できる。今後は、教職課程に限らないが、SD活動における教員と共同の在り方が改善点と考えている。

【令和3年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
教職課程履修指導の17のポイント	学生への教員免許履修指導について	9月29日	7名	第1回学域FD研修会、全体31名
未来デザインプラクティス	授業を通して学生たち自身が地域社会や金沢大学を変えるプロジェクト。学生グループに若手職員等がメンバーとして参加して共に企画を立案・実行する。	4月25日 ～ 12月15日	2名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

・学生課OJTシリーズ 「学則で学ぶ学生系業務」「大学設置基準の改正」をテーマに、メルマガ形式及び対面形式での課内ミニ研修を実施 6月16日～12月8日 参加者26名
---

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
4	昨年度の課内教職業務勉強会に引き続き、学域FD研修会に職員を参加させ、教員免許履修指導への理解を深めた。また、窓口業務により全員の対面研修が困難な状況下での全員参加の「メルマガ方式」による課内ミニ研修を実現した。毎回の内容も分かりやすくまとめられており、若手・ベテラン問わず学生系業務への理解を大いに深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 理工系事務部学生課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	FDシンポジウムへの参加を通じて、コロナ禍でのオンライン授業や学生の状況の変化に関して、理解を深めることができた。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等（教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修）について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ（内容）及び参加人数を記入してください。（適宜、行を追加してください。）（総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。）

実施回数： 1回

名称	テーマ（内容）	開催日	参加人数（概数）	備考
理工学域・自然科学研究科 第14回FDシンポジウム	「授業形態と学習効果」の関係を考える	3月27日	2名	主催、全体70名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会（FD研修会を除く）の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

なし
----

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」 又は「ほとんど評価できない」の 場合は、必ず記載してください。
2	教員の向けの講演だったため、事務職員として知識を得る内容ではなかった。	来年度の活動予定において、時期の移動や回数増などの変更は予定していない。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

### ※BSDの定義

「BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。（「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋）

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部学生課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	地区事務部や学生課主催でBSD活動を実施することは、講師、予算、課題の問題もあり難しいと考える。職員の研修としては、大学全体の研修、他大学合同の学生系研修、外部機関主催の研修に参加している。令和4年度も積極的に参加するよう促す。

【令和3年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 8回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
第1回医学系FD研修会	金沢大学医学類の医学教育	4月5日	1名	
医学系FD特別講演	授業をやめ、医療現場をけいけんすれば学生は自ら勉強する	7月27日	3名	
第5回医学系FD研修会	教職協働	9月12日	3名	
学生の自死防止のための講演会 (金沢大学学生自死防止専門委員会)	ネットを介しゲートキーパーとなるために	12月23日	3名	
学生課SD研修会	コミュニケーションの在り方	2月14日	9名	
学生課SD研修会	立ち位置(現状分析)と働く意義	2月21日	9名	
全学SD研修会	数理・データサイエンス・AI教育の意義	3月10日	4名	
第12回医学系FD研修会	医学教育モデル・コア・カリキュラム改定の概要	3月13日	1名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
4	職員の研修としては、大学全体の研修、他大学合同の学生系研修、外部機関主催の研修に参加している。地区事務部や学生課主催でBSD活動を実施することは、講師、予算、課題の問題もあり難しいが、今年度は学生課長による研修の機会を設けてくださり、多くの職員が研修に取り組めた。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部薬学・がん研支援課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	「研修」という形式にまでは至らないものの、日常業務のOJTによる知識向上やスキルアップに努めている。また、専門部署や関係教員等にアドバイスを求め、その内容等の情報共有を課内で密に行っている。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
薬学4年制課程卒業者の薬剤師国家試験受験資格認定に関する勉強会	薬学4年制課程の卒業者が薬剤師国家試験受験資格を取得できる制度について、制度の概要や手続きに必要な知識の勉強会を行った。	9月26日	2名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「研修」という形式にまでは至らないものの、日常業務のOJTによる教務システムや教員が利用するWebClassの使い方などの知識向上やスキルアップに努めている。また、専門部署や関係教員等にアドバイスを求め、その内容等の情報共有を課内で密に行っている。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

#### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)



## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部保健学支援課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	教員向けの2回のFD研修会への参加を通じて、学生のメンタルサポートケアやハラスメント防止に関し、学内で実際に起きている事例を知り、理解を深めることができた。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和4年度第1回保健学系FD研修会	現在の大学生の特徴から見えてくること ～学習意欲向上に導く支援を目指して～	10月5日	5名	
令和4年度第2回保健学系FD研修会	こころの健康とゲートキーパーについて	11月2日	5名	
令和4年度第3回保健学系FD研修会	医学教育におけるハラスメント防止について	2月22日	5名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	現在の学生の特徴や、こころの健康のサポート、ハラスメント防止をテーマとした教員向けのFD研修会への参加を通じて、学生への支援のあり方について理解を深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

## 令和4年度BSD活動報告(様式)

課名 国際部留学企画課

参考資料: 令和3年度に提出された自己評価及び令和4年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和3年度の自己評価	令和4年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和3年度BSD活動の自己評価及び総評	3	留学生支援を図るため、担当者説明会、研修会等に積極的に参加した。特に外務省や国大協サービスが主催する危機発生時の対応にかかる研修に職員を参加させ、学生の危機対応に係る能力向上を図った。

【令和3年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和4年度の貴課の実施状況等を回答願います。

### ○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和4年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 5回

名称	テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
大学国際教育交流・派遣留学管理者向け危機管理オンラインセミナー	海外派遣におけるトラブル対応事例と事例に学ぶ実践ケーススタディ	6月30日	2名	全体200名
国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会	留学生受け入れ戦略の国際的動向と日本の状況の説明、情報交換	7月4日	7名	東京大学主催
学生の海外渡航危機管理シミュレーション	海外渡航中の事故発生を想定した対応シミュレーション	11月9日	5名	主催、全体73名
大学国際教育交流・派遣留学管理者向け危機管理オンラインセミナー	海外派遣留学の再開に備える大学の安全対策 対応事例に学ぶ危機管理	11月30日	6名	事例発表1名、全体200名
2022年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会	持続可能な留学生教育と支援の在り方の説明、情報交換	2月3日	2名	大阪大学主催

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

### ○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

### ○照会事項3 令和4年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和4年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和4年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	海外渡航中の事故発生時において、発生し得る具体的なシナリオを用いた模擬訓練を行い、危機管理意識の向上と危機発生時の行動が部署を横断して確認できたことは効果が高かった。また、留学生受け入れでは担当者説明会、研修等に積極的に参加した。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

### ※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2 3抜粋)

### 3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
事務局	令和4年度金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	15名	金沢大学
	令和4年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能力の増進を図ることを目的とする。	15名	金沢大学
	令和4年度人事評価研修(評価者研修)	人事評価制度を有効に活用することにより、本学職員の能力開発、意欲向上に寄与するため、対象者に本制度の意義や適切な目標設定等について理解させるとともに、評価者に共通の尺度や評価眼を養成し、公正・公平な評価を行うためのスキルとフィードバックのためのスキルを習得させることを目的とする。	53名(+オンライン参加副課長39名) 計92名	金沢大学
	情報システム統一研修「情報システム入門」	職員が最低限備えておくべき、情報技術に関する基礎的な事項を習得する。	1名	総務省
	情報システム統一研修「電子政府基礎」	電子政府実現に向けた取り組み等情報システムのプロジェクトに携わる職員に必要な基礎知識を習得する。	1名	総務省
	令和4年度トップマネジメント経験研修	事務系の初任職員に対して、大学の運営に係る重要事項が実際にどのように決定されていくのか、また、大学のトップが、日々どのように思考し、どのような活動を行っているのか、身近に経験させることにより、大学経営への関心を深め、将来大学経営に参画できる人材を育成する。	14名	金沢大学
	令和4年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	14名	金沢大学
	令和4年度公文書管理研修Ⅱ(第1回)	公文書等の管理に関する法律を始めとする関連法令の理解、公文書等の管理、保存及び利用に関する専門的な事項の習得することを目的として、本研修を開催する。	1名	独立行政法人国立公文書館
	石川県「文書作成力向上研修(基礎編)」	文書とは情報伝達のための重要な手段であることから、その作成についての基本原則やルールを学び、読み手にとって分かりやすく、かつ、適切な文書を作成する能力の向上を図る。	計15名	石川県自治研修センター

### 3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和4年度金沢大学職員ビジネス英語研修	2014年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、本学における教育研究の国際化・グローバル化に対応するための事務職員等の英語力強化（英検2級（TOEIC600点）以上）を目指し、さらに、本学が海外展開していくために求められる国際対応力を備えた事務職員等の養成を図る。	英語研修 12名 直前対策講座 24名 e-learning 78名 TOEIC-IPテスト受験者 217名	金沢大学
	石川県「ワンペーパー資料作成研修」	様々な情報を図解等を用いて整理し、ワンペーパーにまとめるスキルを習得する。	4名	石川県自治研修センター
	石川県「コーチングスキル研修」	部下や後輩の育成にあたり、主体的に行動することができる職員を育成するためのコミュニケーション方法をはじめとしたコーチングのスキルについて習得する。	4名	石川県自治研修センター
	石川県「説明力向上研修」	県民や上司などに対して、正確で分かりやすく説明するために必要なスキルやコツなどを実践的な演習を通して習得する。	8名	石川県自治研修センター
	石川県「ネゴシエーションスキル(交渉力)向上研修」	窓口などの渉外業務を遂行する上で必要となる実践的な交渉力の向上を図る。	5名	石川県自治研修センター
	自衛消防業務新規講習	消防法改正により、大規模建築物等で自衛消防組織の統括管理者及び本部隊の各班の班長として配置した自衛消防組織の設置が義務づけられ、業務に従事する方を対象に、防火・防災管理に係る対応要領などの知識・技術を習得する。	2名	日本消防設備安全センター
	令和4年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	東海・北陸地区国立大学法人等の事務職員に対して、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、かつ、国立大学法人等職員として必要となる見識を研修することにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。	6名	金沢大学
	令和4年度図書館等職員著作権実務講習会	著作権法施行令（昭和45年政令第335号）第1条の3第1項に掲げる図書館その他の施設の職員に対し、図書館等の実務に必要な著作権に関する知識を修得させる。	1名	文科庁
	石川県「ファシリテーションスキル向上研修」	会議などの集団活動を円滑に進める方法を学び、個々の力を最大限に引き出しながら、組織として効率よく質の高い成果をあげるために必要なスキルについて学ぶ。	4名	石川県自治研修センター
	第60回政府関係法人会計事務職員研修	政府関係法人の会計事務に従事する職員に対し、予算決算及び会計事務に関する必要な知識を修得させることを目的とする。	1名	文部科学省
	石川県「行政クレーム対応研修」	行政クレームへの対処方法を学ぶとともに、円滑な県民応対に資するコ	1名	石川県自治研修センター

### 3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	コミュニケーション能力の向上を図る。		
令和4年度国立大学法人等施設担当職員研修会(初任クラス)	国立大学法人等の施設担当職員として自己の能力を十分に発揮できるよう、国立大学法人等の現況や動向などの概論について理解させるとともに、国立大学法人等の施設整備に係る多様な業務について、初任職員として必要な基礎的知識を習得させる。また、グループごとに課題テーマに対して全員で討議を行い、メンバーの相互コミュニケーションを通じてテーマに対する理解を深め、今後、業務に生かすことのできる人的ネットワークの構築を図る。	1名	東京大学
石川県「アンガーマネジメント研修」	怒りの感情と上手く付き合い、ストレスの軽減や円滑なコミュニケーションを図る。	5名	石川県自治研修センター
令和4年度金沢大学キャリアデザイン実践セミナー	若手職員に自己成長やキャリア形成における主体性の必要性を認識してもらい、自身のキャリアプランを考える機会を提供することで、金沢大学の職員として働き続けることのモチベーションアップを図る。また、同世代の若手職員同士で日頃の悩みを共有し、ストレスとの付き合い方や、変化していく期待・役割の中で協働力を発揮し、組織貢献する方法を学ぶ機会とする。	21名	金沢大学
令和4年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	10名	富山大学
第11回国立六大学事務職員研修会	本研修会は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学の事務職員が、国立六大学連携コンソーシアムの趣旨を踏まえ、その具体的な連携・協力の推進や、大学間の垣根を越えた職員同士のネットワークの構築などを目的として実施するものである。	5名	長崎大学 (オンライン)
石川県「文書作成力向上研修(応用編)」	事例演習を通して、文書に説得力を持たせる構成方法を学ぶとともに多彩な表現方法に触れ、自らの文書表現力をさらに高める。	3名	石川県自治研修センター



### 3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和4年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人，独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の管理職員に対し，立場と役割を認識し，能力及び識見を確立させ，職員としての資質向上を図ることを目的とする。	9名	福井大学
	セルフケア能力向上研修	心の調節力を高め，職務遂行上の適度なストレスと上手に付き合うための知恵を学び，生き生きと活動するためのセルフケア能力の向上を図る。	3名	石川県自治研修センター
	令和4年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的，一般的知識を修得させるとともに，係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ，国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	21名	北陸先端科学技術大学院大学
	石川県「データの見方・活かし方研修」	ビッグデータをはじめとする統計データ等を理解・分析する力を養い，その活用方法を習得する。	1名	石川県自治研修センター
	2022年度国立大学法人等若手職員勉強会	国立大学等の継続的な発展に貢献する若手職員の力量向上 ①所属機関全体や職員としての役割・課題を自覚し，当事者意識を持って考える②国立大学法人等とそれを取り巻く実状について主体的に学ぶ ③職員として必要な資質やマインドに気づき，自らが目指すべき職員像を意識する④他機関の職員とのコミュニケーションを通してネットワークを構築する⑤成果を所属機関へフィードバックし，各機関の発展に貢献する	2名	一般社団法人国立大学協会
	令和4年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者（係長級以下）研修	この研修は，東海・北陸地区の国立大学法人，大学共同利用機関法人，独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の人事担当者（係長級以下）に対し，役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより，法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	4名	愛知教育大学
	令和4年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修	後世に伝えるべき文化財，資料を良好な状態で保存するために不可欠な，展示・収蔵空間における，適切な温湿度環境，空気環境，照明環境の維持管理，および生物被害防止対	1名	国立文化財機構

### 3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
		策等について、これらの自然科学的背景や手法、モニタリングについての基礎的な理解を高め、もって文化財保存の質的向上に寄与することを目的に行う。		
	令和4年度国立大学法人等施設担当職員研修会（中堅クラス）	国立大学法人等の施設担当職員のうち、中堅職員を対象として、施設整備を巡る現状と課題についてその知識を深めるとともに、人的ネットワークを構築・活用し、将来の大学経営を担う人材育成することを目的として、施設担当者職員研修を実施する。	1名	国立大学法人等施設担当部課長会 一般社団法人国立大学協会
	情報システム統一研修（令和4年度第4/四半期）「プロジェクト管理基礎【レベルB】」	情報システム開発におけるプロジェクト管理に必要な基礎知識を習得する。	1名	総務省

## 4 資料編

## 4-1 令和4年度授業評価アンケート

### 4-1 令和4年度授業評価アンケート

#### 4-1-1 令和4年度授業評価アンケート回答率

令和4年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。令和4年度より、新システムによる授業評価アンケート実施を行うことで、学士課程を中心に、回答率が大幅に改善された。

#### 令和4年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和3年度回答率
<b>【学士課程】</b>		
共通教育	99.1%	37.0%
融合学域	98.4%	61.1%
人間社会学域	85.9%	16.3%
理工学域	65.5%	20.0%
医薬保健学域	88.6%	27.7%
<b>【博士前期課程・修士課程】</b>		
人間社会環境研究科	87.7%	25.8%
自然科学研究科	47.0%	7.3%
医薬保健学総合研究科	77.1%	48.7%
新学術創成研究科	27.3%	21.0%
法学研究科	—	11.1%
<b>【博士後期課程・博士課程】</b>		
人間社会環境研究科	72.7%	25.0%
医薬保健学総合研究科	35.3%	32.1%
先進予防医学研究科	30.8%	59.2%
新学術創成研究科	20.0%	—
<b>【専門職学位課程】</b>		
法学研究科	63.5%	65.5%
教職実践研究科	100.0%	99.3%

## 4-1 令和4年度授業評価アンケート

### 4-1-2 共通教育GS科目1~6群の回答結果比較

令和3年度から共通教育GS科目に新たに6群が加わり、1群から6群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の6項目について比較を行った。5群の科目が全項目において他群に比べ、平均スコアが高くなっている。また、新設された6群では、前年度同様に、「授業外学修時間」が多くなっていることが特徴的である。

		回答数	回答率	①授業内容の適切性 (-50~50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (-50~50の101段階 のスコア平均)	③授業外学修時間 (授業1回あたり の時間数平均)	④授業理解度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑤学修目標達成度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (-50~50の101段階 のスコア平均)
共通教育 GS科目	1群	5,165	98.34%	29.55	26.14	3.01	24.35	24.60	25.07
	2群	6,384	98.11%	31.86	29.70	2.90	27.73	27.29	29.35
	3群	4,483	98.79%	30.49	27.99	2.56	26.60	26.29	27.85
	4群	4,493	98.16%	30.22	27.84	3.08	26.14	25.61	26.74
	5群	5,416	98.63%	33.48	31.59	3.74	29.74	28.34	29.94
	6群	5,401	99.19%	30.30	25.08	3.53	24.15	24.60	25.46



## 4-2 令和4年度卒業・修了者アンケート

### 4-2 令和4年度卒業・修了者アンケート

#### 4-2-1 令和4年度卒業・修了者アンケート回答率

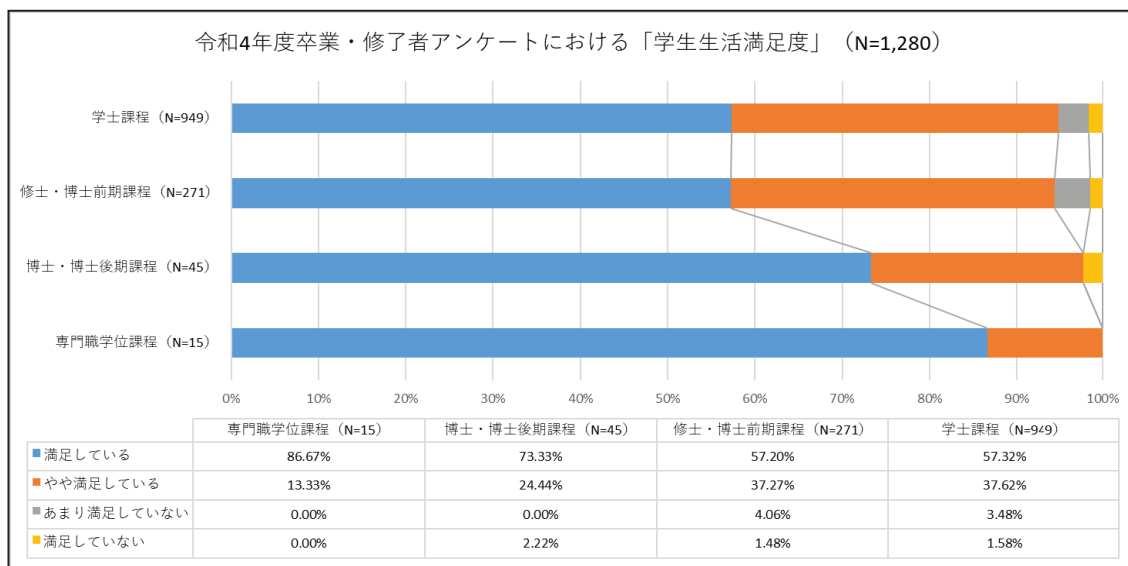
令和4年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程においては、回答率が大幅に改善された。今後も、この傾向を続け、更なる回答率の向上が求められる。また、大学院課程においては、全体的に、回答率改善のための一層の努力が必要である。

令和4年度卒業・修了者アンケート回答率概要		
部局名	回答率	(参考)令和3年度回答率
<b>【学士課程】</b>		
人間社会学域	53.9%	47.5%
理工学域	48.2%	21.9%
医薬保健学域	78.3%	41.8%
<b>【博士前期課程・修士課程】</b>		
人間社会環境研究科	50.0%	79.4%
自然科学研究科	38.4%	25.3%
医薬保健学総合研究科	81.4%	55.8%
新学術創成研究科	88.9%	5.6%
法学研究科	100.0%	—
<b>【博士後期課程・博士課程】</b>		
人間社会環境研究科	55.6%	71.4%
自然科学研究科	3.7%	8.9%
医薬保健学総合研究科	71.2%	61.4%
先進予防医学研究科	—	66.7%
新学術創成研究科	66.7%	—
<b>【専門職学位課程】</b>		
法学研究科	—	100.0%
教職実践研究科	100.0%	92.3%

## 4-2 令和4年度卒業・修了者アンケート

### 4-2-2 令和4年度卒業・修了者アンケート結果による「学生生活満足度」

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。



### 4-3 令和4年度卒業・修了後アンケート

#### 4-3 令和4年度卒業・修了後アンケート

##### 4-3-1 令和4年度卒業・修了後アンケート回答者内訳

令和4年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。今回は、前回アンケート対象でなかった令和3年度卒業・修了者2,604名を対象に、卒業・修了1年後の状況を調査することを目的として当該アンケートを実施した。令和5年3月30日～5月12日の回答期間において161件の回答があり、そのうち、有効回答数は159件（対象者2,604名、回答率6.1%）であった。その回答者内訳は下表のとおりである。今後は、金沢大学IDを活用した当該アンケート実施体制が整ったため、卒業・修了後3年または5年の該当者を対象としたアンケートを継続実施することを考えている。

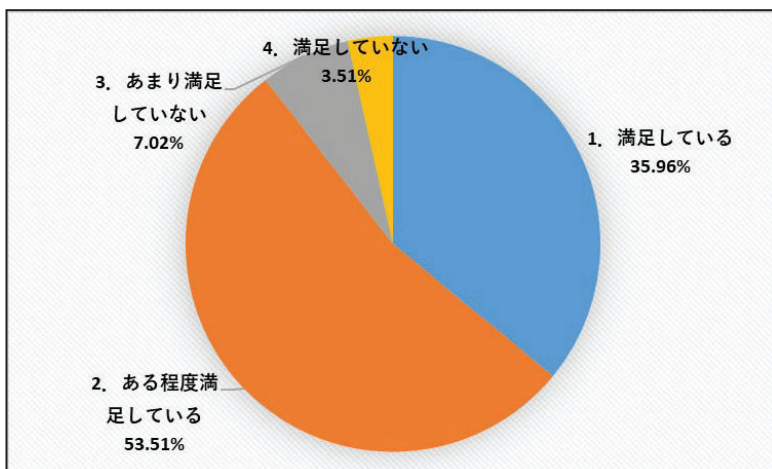
卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	45
理工学域	33
医薬保健学域	24
<b>学士課程 小計</b>	<b>102</b>
人間社会環境研究科	
博士前期課程	9
自然科学研究科	
博士前期課程	29
博士後期課程	6
医薬保健学総合研究科	
博士前期課程	3
博士後期課程	3
博士課程	3
教職実践研究科	4
<b>大学院課程 小計</b>	<b>57</b>
<b>総計</b>	<b>159</b>

##### 4-3-2 現在の職種（N=113）

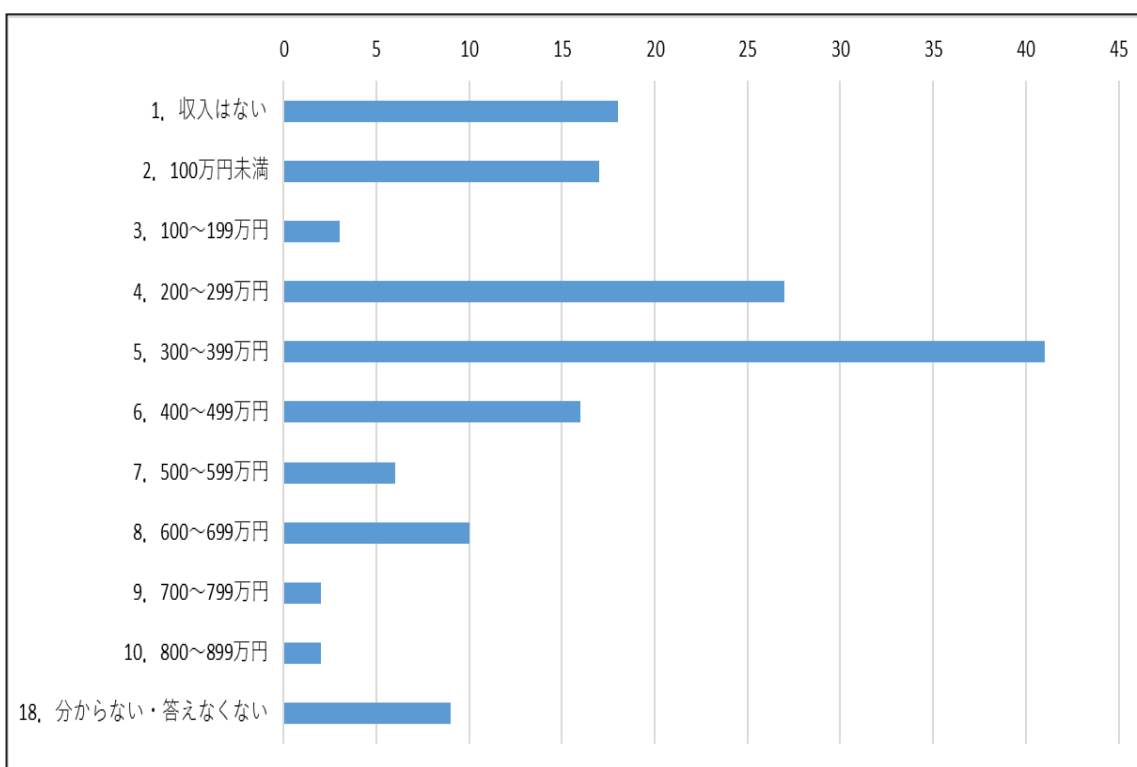
	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
人間社会学域	18		4	1	4		5	3		2	37
理工学域	3		4		1						8
医薬保健学域			4	2	2			8			16
人間社会環境研究科											
博士前期課程	4	1		1				1	1		8
自然科学研究科											
博士前期課程			17	2	1	6				1	27
博士後期課程						5					5
医薬保健学総合研究科											
博士前期課程			1			2					3
博士後期課程					2	1					3
博士課程			1					1			2
教職実践研究科					4						4
<b>総計</b>	<b>25</b>	<b>1</b>	<b>31</b>	<b>6</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>5</b>	<b>13</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>113</b>

#### 4-3 令和4年度卒業・修了後アンケート

##### 4-3-3 現在の職業満足度 (N=114)



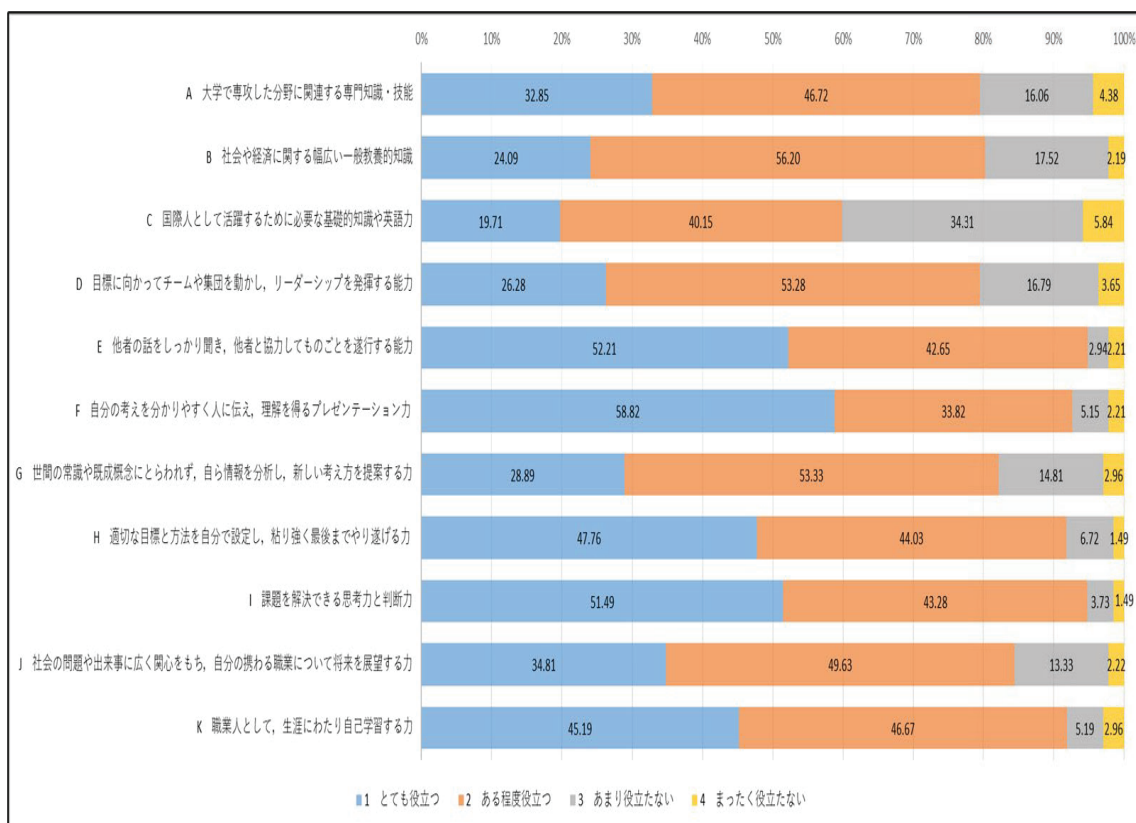
##### 4-3-4 現在の個人年収 (N=151)



### 4-3 令和4年度卒業・修了後アンケート

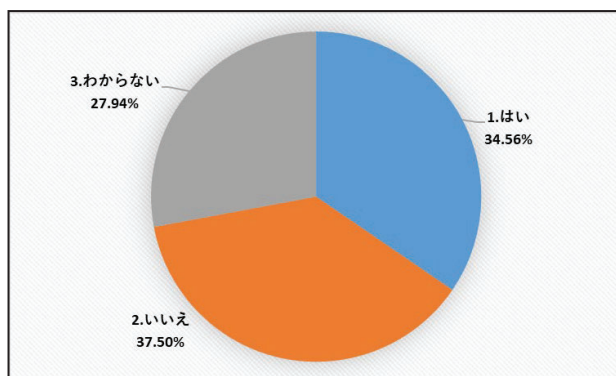
#### 4-3-5 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い (N=135)

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力しものごとを遂行する能力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」が特に高い結果となっている。



#### 4-3-6 大学・大学院における学び直しの希望の有無 (N=136)

回答者が卒業・修了1年後でありながら、問8の大学・大学院における学び直しについて、34.56%の割合で希望ありと答えており、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要がある。





#### 4 - 4 金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する学長補佐 1 人
- (2) 融合学域を担当する教員から選出された者 1 人
- (3) 人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (4) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (5) 国際基幹教育院に所属する教員から選出された者 1 人
- (6) 教学マネジメントセンターに所属する教員から選出された者 1 人
- (7) 学務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 6 号及び第 8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第 7 条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第9条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## 4-5 金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月 9日 FD委員会承認  
 平成21年4月10日 教育企画会議承認  
 令和 5年1月18日 FD委員会改正(抄)  
 令和 5年3月10日 教育企画会議改正(抄)

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人材を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

## (目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

## (定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

3 この指針において、「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。

4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。

5 この指針において、「指導補助者(教員を除く。)」とは、ティーチング・アシスタント、

高度ティーチング・アシスタント、クラス・ラーニング・アドバイザーをいう。

- 6 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

(教職員及び部局等の責務)

第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。

2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。

3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

(FD委員会の業務)

第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。

2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。

3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

(FD委員会委員長による改善の措置等)

第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

(年度報告書の公開)

第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

(部局等の改善に向けての取組み)

第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。

2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

(FD活動等への支援)

第8 教学マネジメントセンターは、FD、SD、BSD活動及び指導補助者（教員を除く。）への研修に対して、必要な支援を行う。

## 4-6 金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「GS 科目」、「GS 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域GS 科目」、「学域GS 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定の分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、国際基幹教育院長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、国際基幹教育院において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(先導 STEAM 人材育成特別プログラム)

第 5 条の 2 幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的として、「先導 STEAM 人材育成特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 先導 STEAM 人材育成特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 先導 STEAM 人材育成特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(データサイエンス特別プログラム)



第5条の3 数理・データサイエンス・AI活用のための基礎的知識を有する人材を育成するため「データサイエンス特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 データサイエンス特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 データサイエンス特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第6条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、国際基幹教育院及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は国際基幹教育院長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び国際基幹教育院で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第11条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 授業出席回数が国際基幹教育院及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者

(3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者  
(不正行為)

第12条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第13条 各学期及び各クォーターにおける開講授業科目の単位確定時期は別に定める。ただし、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

評語	英訳(証明書)評語	判定	学修達成度
(1) S	AA	合格	90%以上
(2) A	A	合格	80%以上 90%未満
(3) B	B	合格	70%以上 80%未満
(4) C	C	合格	60%以上 70%未満
(5) 合	P: Pass	合格	60%以上
(6) 認定	CF: Certify	合格	60%以上
(7) 不可		不合格	60%未満
(8) 否		不合格	60%未満
(9) 放棄		不合格	

2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。

3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。

4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

5 成績通知には、第1項の評語を用いる。

6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第1項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第15条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「G P」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
(1) S	4 点
(2) A	3 点
(3) B	2 点
(4) C	1 点
(5) 合	対象外
(6) 認定	対象外
(7) 不可	0 点
(8) 否	対象外
(9) 放棄	0 点 (第 14 条第 2 項に規定する評語を用いる科目については対象外)

2 単位認定が保留となった授業科目の GP は、0 点とする。

3 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$$\text{GPA} = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$$

4 成績証明書には、GPA は明記しない。

5 GPA における保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。

6 再履修の取扱いについては、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

7 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

(1) 共通教育科目

「導入科目」, 「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」, 「放送大学の授業科目」, 「入学前の既修得単位を認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」

(2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。

(3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。

(成績評価の疑義申し立て)

第 16 条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。

附 則 (抄)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

4-7 金沢大学シラバス様式

4-7

金沢大学シラバス様式

〇〇学域 〇〇学類

科目名[英文名] / Course Title			
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor			
科目ナンバー / Numbering			
時間割番号 / Course Number		科目区分 / Subject distinguish	
講義形態 / Lecture Form		開講学域等 / Faculty	
適正人数 / Number of Proper		開講学期 / Semester	
曜日・時限 / Day・Period		単位数 / Number of Credits	
対象学生 / Target students			
キーワード / KeyWord			
講義室情報 (開講形態を含む) / Lecture room information			
開放科目 / Open account			
備考 / Note			
授業の主題 / Topic			
学修目標 (到達目標) / Learning Goal			
授業概要 / Outline			
講義スケジュール / Lecture Schedule			
評価方法 / Grading Method			
※成績評価： 次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S (達成度90%~100%)」、「A (同80%~90%未満)」、 「B (同70%~80%未満)」、「C (同60%~70%未満)」を合格とし、 「不可 (同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法)			
評価の割合 / Grading Rate			
ルーブリック / Rubric			
ルーブリック備考 / Rubric note			
予習に関する指示 / Preparation			
復習に関する指示 / Homework			
教科書 / Text Books			
参考書 / Reference Books			
教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note			
オフィスアワー等 (学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time			
履修条件 / Prerequisites			
適正人数 / Class Size			
受講者調整方法 / Method for adjusting class size			
その他履修上の注意事項や学修上の助言 / Others			
カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum			
特記事項 / Special Note			

## 4-8 令和4年度金沢大学FD委員会名簿

4-8

### 令和4年度 FD委員会

事務担当：学務部学務課教育推進係

任期2022. 4. 1～2023. 3. 31

部 局 等	職 名	氏 名
〔委員長〕	学長補佐	片岡 邦重
融合学域	准教授	河内 幾帆
人間社会学域	准教授	阪口 博政
人間社会学域	教授	寺沢 なお子
理工学域	教授	下川 智嗣
理工学域	教授	長尾 秀実
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
医薬保健学域	教授	松原 孝祐
人間社会環境研究科	教授	稲角 光恵
法学研究科	教授	宮本 誠子
自然科学研究科	准教授	辻 徳生
医薬保健学総合研究科	教授	藤永 由佳子
先進予防医学研究科	准教授	所 正治
新学術創成研究科	教授	辛川 誠
教職実践研究科	教授	大谷 実
国際基幹教育院	教授	滝野 隆久
教学マネジメントセンター	教授	林 透
教学マネジメントセンター	教授	堀井 祐介
事務局学務部	学務部長	西出 良一





令和4年度  
金沢大学FD活動報告書  
令和5年8月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会  
〒920-1192 金沢市角間町  
E-mail : kyomu@adm.kanazawa-uac.jp (学務部学務課)